

2018 風来坊 Country Walk

里歩き・山歩き・街歩き 2018

水行末 雲来末 風来末

2019. 3. 5.

Mutsu Nakanishi Home Page

<http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/>



Iron Road 縄文 ふらっと訪れた街の景色 四季折々

日本各地に残る素晴らしい風景

歳をとるにつれ、遠くへはなかなか行けませんが、まだまだ元気 好奇心一杯

思いつくまま 気が向くままに 四季折々 ふらっと訪ねています。

毎年 同じ景色を眺めるのも楽しみ ふと見かけた自分だけの景色の発見もうれしい
全くの独りよがりの風景の羅列です。

体力の衰えはいかんともしがたく、だんだん 山や谷筋へ入れなくなってきましたが、
その分 街歩きの楽しみも増えました

おもいつくまま 気が向くままの風来坊 水行末 雲来末 風来末

自分だけの景色をぎざむ楽しみです

Country Walk 風来坊

By Mutsu Nakanishi

2018.3.5.

水行末 雲来末 風来末 和鉄の道 風来坊

Iron Road 縄文 ふらっと訪れた山・里・街角 そして歴史を訪ねて
日本各地には 自然・人・地域・歴史の痕跡とともに
地域それぞれ・四季折々 素晴らしい日本の原風景が残り、
訪れると いつも新しい発見があり、 自分だけの景色で迎えてくれる
Country Walk の楽しみです

鉄の「まばゆい輝き・閃光」と「黒光り・肌光」
日本には「たたら製鉄」という鉄鉱石や砂鉄の塊から、
「硬くてねばい鋼」を直接作り出す日本古来の製鉄法がある。
ヒッタイトが人工鉄を発明した当初の姿を現代まで残し、
現在の製鉄法にも負けない高品質の鋼を作り出す技術に高め、
維持している日本独自の製鉄法である。



日本に「鉄」が伝来して、この「たたら製鉄」が行われるまで、約800年の長きにわたってたたら製鉄法の摸索が続き、その技術をさらに磨き高めながら1500年続いてきた日本独自の製鉄技術。

「鉄は国家なり」「鉄は産業の米」と「鉄」の力が強調される一方で、文化を育み、そこに住む人たちの生活を豊かにし、現在に至る日本を作ってきた。

人里離れた里山の谷筋や川筋・海岸などに、産業生産・工房・街・街道などの痕跡とともに、それに携わった人々の賑わいや数々のドラマとともに日本の原風景といわれる素晴らしい景色が今も残っています。

そんなIron Road歩きを中心に好奇心いっぱい。足の向くまま 気の向くまま 日本各地に残る素晴らしい四季折々の風景を求めてCountry Walk10数年。

最近は何となく遠くへ行かれなくなりましたが、まだまだ元気 好奇心も一杯。

素晴らしい景色とともに数々の出会いの楽しみも。

日本各地のCountry Walkを楽しんでいます。



風来坊・Country walk 2018

水行末 雲来末 風来末 山歩き・里歩き・街歩き

まえがき & 掲載トピックス



本年も私の住む神戸を中心とした近郊の里を季節折々訪ねる相も変らぬ花便り・近郊ハイクの楽しみに、一日 8000 歩健康 walk も相変わらず続けることができ、その過程で見つけた神戸須磨界隈の四季の景色も
 冬 蟬梅・水仙・椿に始まり 春 梅・カタクリと芽吹き of 樹々に始まり、新緑・菜の花・桜 そして石楠花・バラへ
 夏はクリソウ・アジサイ・ひまわり そして 秋は黄金色に輝く播磨の田園とヒガンバナ
 そして、コスモス・県花ノジギク満開の散歩道から紅葉等々。毎日の walk が楽しみ。

また 日に日に成長する孫たちと一緒に遊ぶこともおおくなり、孫の Photo も・・・

毎年同じような情景の記録ばかりですが、季節の移り変わりの定点観測と健康で動けることに感謝しつつ、好奇心いっぱい季節の移り変わりを知る楽しい機会に。

でも 今年には地球温暖化に伴う急激な気候変動とさらには地球が活動期に入り 自然災害の多発とともにその猛威の巨大化で思い描いていた季節感が大幅にずれるばかりでなく、里山や車窓に見る街の景色にも、災害猛威の跡が今も残り、季節の walk を楽しむとのんきなことを言っている場合ではないとも。

想定外が常態化する今、老齢を迎える我々には厳しい時代

みんなに助けをもらいながらも「予知感度を挙げて 陣の実は自分で守る」と強がりの日々。

そんな日々 四季折々神戸で暮らす身近でとらえた 1 年を通してのデジカメ写真の歳時記。

ちょっとでも 日々の暮らしに響いていただくことがあれば……と。

日常記録の中で、わたしにとっての 2018 年の風来坊・Country walk 11 件の中からのトピックス Photo

◎ 春夏秋冬 1 年を通じて歩く横尾道・西六甲縦走路 毎日 walk

一年を通じて、鉄拐山から旗振り山・須磨アルプス・高取山そして北のしあわせの村・鶴越等々思いつくまま気の向くままコースを変えて歩きました。今年は猛威を振るった台風や大雨の爪痕が残りました。

また PM25 の影響化年々見通し悪く 目安にしている大阪湾越し二上山のこぶが見えたのは数度。

◎ 今年の秋の絶景 播磨灘に沈む夕日

夕方 横尾道を歩くといつも日没・夕日にデジカメを向けるのですが、ダメ。やっと今年美しい夕日に成功

◎ 春の妖精「カタクリの花」と佐用の一本桜 漆野の「大糸桜」を今年も訪ねました

◎ 梅雨の晴れ間に東六甲を歩く

いつも遠く眺める東六甲の山・谷 かつてよく歩いた東六甲ですが、最近ほとんど歩いたことなし。

ふと思い立って歩きました。 緑の草原 東おたふく山は西六甲では見られぬ景色 本当に新鮮でした

◎ 京都八瀬の真っ赤に染まった紅葉のトンネル

今年は暖冬の影響か 真っ赤な紅葉が見られず、寂しく思っていたましたが、京都洛北 比叡山山麓八瀬で

おもいもかれず、真っ赤に色づく紅葉のトンネルに。京都市街地からすぐの八瀬の紅葉の美しさにびっくり。

ほかにも色々。私にとっては 1 年 1 年のうれしい四季折々歩いた Photo&映像スライドの記録。

いつも BGM には苦労していますが、BGM をつけて ゆったりと眺めては楽しんでいます。

2018 風来坊 Country Walk もくじ

山歩き・里歩き・街歩き 2018 11 件記載

風来坊 Country walk [17]山歩き・里歩き・街歩き 2018

1. 新春の須磨 西六甲縦走路 鉄拐山・旗振り山 初歩き 2018.1.4.. 18walk01.pdf
六甲の山並み・大阪湾の大展望を楽しみ、久しぶりに一の谷を降りて、須磨浦海岸へ

【1.須磨高倉台から西六甲全山縦走路鉄拐山へ】⇒【2.鉄拐山西六甲から神戸～紀淡海峡の大阪湾大展望】⇒
【3.六甲連山が明石海峡に落ちる西端旗振り山】⇒【4.旗振り山から須磨浦へ 源平の歴史 一の谷を下る】⇒
【5.春の海 須磨浦と須磨海岸】⇒【6.須磨の海岸から須磨の街並みを抜けて、夕陽迫る山裾の須磨寺へ】

- 2 早春 walk from Kobe Suma 神戸の春はすぐそこに 2018.2 月 18walk02.pdf

梅の花が満開となり、神戸の春を告げるいかなご漁も始まり

3月1日 深夜 春一番が吹き荒れ、待ち兼ねた春はもうすぐそこに

神戸の春の到来です

早春の気持ちを明るくしてくれる春の花 早く咲きだしてほしいと春を探しての須磨界隈早春 walk です

◎2018.2.7. 自宅東側の鶴越尾根筋の裏に隠れている獅子が池に鴨が来て遊んでいました

◎2018.2.14. 昨年はバスした還付申告。県税事務所からの住民税申告の申告書。
還付はほとんどなし、同じ事ならやり方が解っている還付申告で。
申告を済ませ、納税満宮へ でも まだ梅の蕾は固い。

◎2018.2.17. やっと暖かくなり初めた午後
澄み渡る青空に 高取山に登って 大阪湾・神戸の街遠望に

◎2018.2.18. 神戸の南京町の春節祭久しぶりに街へ 街は大勢の人で大賑わい。

◎2018.2.21. 急に暖かくなって各地の梅便りのニュース
でも難岡山梅林ではまだ一輪も咲いておらず。でも久しぶりの里が心地よい

◎2018.2.24. 暖かい日が続き、ふと思い出した琵琶湖早咲きの菜の花畑
一面を黄色にする早咲きの菜の花畑に元気をもらいに……

◎ 2018.2.26. 急に暖かい日が続くこの1週間
須磨walkの道すがらの須磨難宮公園梅満開の案内
半信半疑で難宮公園の梅林へ 紅白の梅が今を盛りと満開に。

また、今日 いかなご漁が解禁に……
平年並みとはいきませんが、うれしい神戸の春到来。

◎2018. 2. 27. 神戸に春が来た。 そんな目でうきうき顔で街を歩く
あちこち 街角で咲き始めた梅の花。うれしい春到来

3. 春の嵐が吹き荒れた翌日の“物好き Walk” 2018 3.21. 18walk03.pdf

《澄み渡る大阪湾の大展望と椿の道》 妙法寺から須磨アルプス東端の東山を超えて、南の板宿へ歩く

4. 古代たたら郷 西播磨「佐用」の春 2018 2018.3.31 18walk04.pdf.

春の妖精「カタクリの花」と佐用の一本桜 漆野の「大糸桜」を今年も訪ねました

- 5 神戸 2018 年 過ぎ行く春の Photo Album 2018.5.3. 18walk05.pdf

新緑の神戸の街で 風来坊 毎日 Good Day Now!! と

桜が散ると野山も街も一斉に新緑に衣替え 春が猛スピードで駆けてゆく

1. 4.10 久しぶりに神戸の街にでて、諏訪山レインボーブリッジに登る

若者のデートスポットですが、久しぶりに神戸の街が眼下に広がる

2. 4.14. 穏やかな春の午後 鉄拐山より大阪湾が一望 穏やかな須磨浦の海に潮目がくっきり見える

須磨の春 春の海ひねもす のたりのたりかな

3. 4.20. 新緑に包まれた姫路城 新緑の中を舞う白鷺のごとし 緑のトンネルの中を歩く
鉄鋼マンとしての出発をした若者たちの一群が写真を撮っているのだから。
わたしにも昔こんな時代があったと懐かしく 若者たちにエールを送る
4. 4.23 自覚の角先も真っ赤なボビーが咲いて 華やかに いつもの春の角先に
5. 4.27. シャクナゲ 2018 盛りが過ぎたかと心配しながら、森林植物園 石楠花谷へ
今年も新緑の谷を埋め尽くす日本シャクナゲ 新緑の中に咲くハンカチの木や
ドウダンツツジにも出会えました。
谷の上部のホソバシャクナゲはいつもはこれからという時期ですが、ちょうど盛り
ドウダンツツジは「灯台躑躅」と書く。これは山口の「特牛・コトイ」級の難読や
6. 4.27. 東播磨吉川の黒滝三木市吉川町の美観川幅一杯 幅 30m、落差 4m の滝)
東播磨の田園が広がる「山田の里吉川」の街の中に落差は小さいが川幅一杯に流れ落ちる
こんな美しい滝「黒滝」がある。水辺が恋しくなってきた矢先、初めてたずねました
7. 5. 1. さわやかな五月の風に横尾道 のじぎくの丘の大空を泳ぐこいのぼり
8. 5. 3. 5 月の連休はいつものごとく家で休養
待ちかねたアグロステンマの花が咲いて 5 月の角先・庭に掉尾を飾るバラの香りが漂う
薫風 5 月 Good Day 今日元気 孫たちも帰ってのんびりと

- 6 何万年も前の空気の泡を一杯閉じ込めて真っ白な南極氷 2018.5.12. 18walk06.pdf
第58次南極観測隊 岡田雅樹博士からの贈り物 南極の氷山から切り出した南極氷がわが家に届きました
- 7 梅雨の晴れ間に東六甲を歩く【1】 2018.6.14. 18walk07.pdf
六甲山上 高山植物園 より六甲最高峰を経て 久しぶりに住吉谷を下る .

1. 初夏の高山植物やニッコウキスゲの咲く六甲高山植物園
2. 六甲山上の縦走路を東へ山上散策 六甲山最高峰へ
3. 有馬と表六甲を結ぶ六甲越の古道「魚屋道・住吉道」を住吉谷を下る

■ 六甲の川物語「住吉川物語」 国土交通省 六甲砂防事務所
<https://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/rokko/study/sumiyoshi/sum-b.pdf>

- 8 梅雨の晴れ間に東六甲を歩く【2】 2018.6.22. 18walk08.pdf
表六甲東灘 阪急岡本から尾根筋を 保久良神社・風吹岩・雨ヶ峠を経て東おたふく山へ
9. 西神戸・東播磨 うれしい秋の訪れ 2018 小さい秋 みい〜つけた !! 18walk09.pdf

1. 初秋 西神戸
みのりの田園地帯を彩る彼岸花 白川&伊川谷の里で
2. 初秋 東播磨
加古川市志方広尾集落から福匂峠を超えて小野市きすみのを訪ねる
コスモスの里志方広尾&福匂峠から見るきすみの棚田・きすみののそば畑
3. 東播磨 酒米の郷に秋を告げる風物詩
加東町から三木市吉川 酒米の田の畦にはためく酒蔵の旗
東町木梨の郷ほかで

10. 2018 西神戸・須磨界隈 10 月 深まり行く秋点描 2018.11.3. 18walk10.pdf
小さな秋 みい〜つけたあ気ままな須磨・東播磨の walk

- 高塚山から眺める播磨灘・明石海峡・大阪湾沿岸全景
沿岸を東へ連なる六甲連山 全山縦走路の山々の展望
- 2018 秋 コスモス from Kobe 西播磨のコスモスの里 志方を駆ける
- 秋の日暮れはつるべ落とし 横尾道で茜色に染まる日暮れを楽しむ
- 秋のバラ2018 須磨離宮公園で ほか

- 11 京都八瀬の真っ赤に染まった紅葉のトンネル 2018.11.29. 18walk11.pdf

新春 須磨西六甲縦走路 旗振り山へ初歩き 2018.1.4.

高倉山・鉄拐山から旗振り山へ 帰りは一の谷を須磨浦へ降りる

By Mutsu Nakanishi



縦走路へ高倉山山腹遊歩道から眺める明石海峡・明石大橋 2018.1.4.



縦走路へ登り終る戸 潮に大坂湾が一望 眼下に神戸の街が広がり 海を挟んで遠く生駒山から葛城・金剛の山並みも見える 2018.1.4.



毎度なのですが、大坂湾の向こうに見える山並みの中に 二上山の二つこぶを探す 今日はずっと 見えていたようだ



大坂湾の対岸 大阪・堺沿岸の街並・工場群の奥 金剛・葛城山の山並の北端に ずっと二上山の二つこぶが見え、ラッキーな気分も倍増 2018.1.4.



群生するワケマギの林の中を縦走路・大坂湾が見晴らせる鉄拐山の頂上へ 2018.1.4.



群生するワケマギの林の中を縦走路・大坂湾が見晴らせる鉄拐山の頂上へ 2018.1.4.



鉄枔山山頂 大阪湾全体のパノラマが見られる大展望所 2018.1.4.
南から南へ 六甲連山・神戸の市並み そして大阪湾に沿って広がる大阪から泉南・和歌山沿岸の大展望



大阪湾全体のパノラマが見られる大展望所 鉄枔山山頂 2018.1.4.
高倉台の住宅地 正面に六甲連山・神戸の市並みが見えてくる
左手手前には 横尾・駒岡山、その奥は高倉台、手前から高倉山の見える高倉山・高倉山の市街地の南六甲



鉄枔山山頂からの大展望 2018.1.4.
南から南へ 六甲連山・神戸の市並み そして大阪湾に沿って広がる大阪から泉南・和歌山沿岸の大展望



東側の展望: 六甲の山並みを中央に見て、高倉台の住宅地、正面に六甲連山・神戸の市並みが見えてくる。六甲連山・高倉山の市街地の南六甲。2018.1.4.



鉄枔山より、西六甲全山縦走路の山々を眺める 2018.1.4.
左手手前に高倉山、高倉台の住宅地を挟んで 横尾・駒岡山の須路アルプス
その奥は高倉山・高倉台の見える高倉山・高倉山の市街地の南六甲
そして東六甲の山並みが見え立ちはだかる



北側の展望: 須路名谷ニュータウンが広がり、その奥に西神戸の泉南・神戸の市街地の南六甲・高倉山がどっしりと立っている。2018.1.4.



【動画:56sec】2018年1月4日 大阪湾の大展望



鉄枔山から全山縦走路の西の端旗振り山へ向かう <1> 2018.1.4.



鉄枔山から全山縦走路の西の端旗振り山へ向かう <2> 2018.1.4.



群生するパセリンの林の中を縦走路、いつもの観音路 鉄枔山の下 2018.1.4.



全山縦走路の西の端 旗振り山山頂 正面に淡路島・明石海峡・明石太橋
六甲連山が明石海峡に落ちる西の端 摂津/播磨の国境である 2018.1.4



新春のひざしに輝く須磨の海 淡路島・明石海峡 旗振り山 <1> 2018.1.4.



新春のひざしに輝く須磨の海 淡路島・明石海峡 旗振り山 <2> 2018.1.4.



ふと頭を浮かんで、久しぶりに 一の谷を降りて 須磨海岸へ出て 網敷天満宮・須磨寺を巡って帰る



旗振り山から一の谷を下って 須磨海岸へ
網敷天満宮・須磨寺へ寄って帰る 2018.1.4



須磨 源平の古戦場 一の谷
旗振り山の南東側 林の中を崖が鋭く谷筋の山腹のトフバース道 校舎根を登きながら下る。
「一の谷の逆さ」といふ こんな崖をよくもま降りたなあ...と思う谷筋である。 2018.1.4.



須磨 源平の古戦場 一の谷
意外なほど、崖が急なところ、震災で崩壊したところ 下は崖で谷にはおられない
崖に沿って、急な崖道を下って 崖根を南の須磨海岸へ下ってゆく。 2018.1.4.



須磨 源平の古戦場 一の谷
急な階段道を下ると また林の中 寄手場・四方場のすぐ横に出た。
真つすべの須磨海岸へ下ってゆく。 2018.1.4.



須磨 源平の古戦場 一の谷
源平の戦の伝承地 一の谷、かつて輪水正成が敵方軍方の戦死者を弔うため、寄手場・四方場
を作った古事に因って、第二次世界大戦の戦没者慰霊のために作られたという。
ここを下ると一の谷町。 悲劇の幼帝安徳天皇の内裏の伝承地 2018.1.4.



林の中 一の谷の山道を抜けるととぼと正都に海が見える一の谷町の住宅地
また、海はづつと下の高台 一の谷の出口 一の谷町の住宅地 眼下に海が見える 2018.1.4.
住宅地の一角に大きな軒数の見える一の谷公園があり、この地が悲劇の幼帝安徳天皇の内裏の伝承地



一の谷町にある安徳天皇内裏の伝承地の南側入口 2018.1.4.

後ろは、台割ってきた源頼朝山から鉄振山の山並みが見える一の谷である。また、約90mの立派な高台の住宅地の中、一の谷公園として安徳天皇内裏の伝承地が整備されている。



一の谷公園 安徳天皇内裏の伝承地 2018.1.4.

一の谷跡地にはかつて源頼朝が作られた場所、大きな群衆がその名残である。



安徳天皇内裏の伝承地 一の谷公園 安徳天皇の冥福を祈って安徳天皇がまつられている。 2018.1.4.



一の谷公園からは 西に ロプウェイがかかる蘇伏山・その奥に旗振り山が見えている 2018.1.4.



一の谷町はまだ標高50m以上ある高台の住宅地。眼下には、須磨浦との狭い間を走り抜けるJR・山陽電車そして国道2号線が走りぬけてゆくの見える。正面は須磨浦、海釣り公園の向こうは紀淡海峡。和歌山の山並みと細島の島が遠くかすんでいる。



一の谷町九十九折れ階段より 須磨の浦

眼下には須磨浦との狭い間を走り抜けるJR山陽電車そして国道2号線が走りぬけてゆくの見える。正面は須磨浦、海釣り公園の向こうに紀淡海峡が遠望。ここから九十九折れの階段を海岸の線路さきわまで降りて須磨浦の海岸へ出る。



一の谷町九十九折れ階段より 須磨の浦 2018. 1. 4. 須磨浦海岸



須磨浦海岸より紀淡海峡遠望 2018.1.4.

和歌山の山並みがかすむ右が紀淡海峡。そして、海峡に浮かぶ友が島が遠くみえている。



須磨浦 一の谷町九十九折れ階段下の崖の斜面には、町の人たちが植えた水仙が満開に。 2018.1.4.



須磨浦 一の谷町九十九折れ階段下の崖の斜面には水仙が満開に。 2018.1.4.



須磨浦 一の谷町九十九折れ階段下の崖の斜面には水仙が満開に 2018.1.4



須磨浦海岸に出ると市街後4時前
JRと山陽電車が挟まれた狭い海岸を国道2号線が抜けてゆく 2018.1.4.



一の谷を流れ下ってきた一の谷川



国道2号線を東へ 須磨駅周辺のR2 2018.1.4.



須磨の山並みの山麓 須磨寺の三重の塔 2018.1.4.夕



須磨の山並みの山麓 須磨寺の三重の塔 2018.1.4.夕



須磨寺の墓地を抜けて 北側の出口へ帰りを急ぐ 2018.1.4.夕



© 2017 ZENRIN
海釣り公園



旗振り山から一の谷を下って 須磨海岸へ
網敷天満宮・須磨寺へ寄って帰る 2018.1.4

2018 Walk
02

【Photo アルバム】早春 walk from Kobe Suma 2018.3.5.

やっと暖かくなり始めた 2018 年 2 月下旬
 梅の花が満開となり、神戸の春を告げるいかなご漁も始まり
 3 月 1 日 深夜 春一番が吹き荒れ、待ち兼ねた春はもうすぐそこに
 神戸の春の到来です



やっと暖かくなった 2 月中旬 春を探しての須磨界隈早春 walk



早春 walk from Kobe Suma Photo 抜粋
 早春の気持ちを明るくしてくれる春の花 早く咲きだしてほしいと

- ◎ 2018.2.7. 自宅東側の鶴越尾根筋の裏に隠れている獅子が池に鴨が来て遊んでいました
- ◎ 2018.2.14. 昨年 還付申告をパスすると県税事務所からの住民税申告の申告書が送られてきた。同じ事ならやり方が解っている還付申告で。還付はほとんどなしですが・・・須磨税務署で申告完了。いつものコース網敷天満宮へ でも今年はまだ梅の蕾は固い。
- ◎ 2018.2.17. やっと暖かくなり初めた午後 澄み渡る青空に高取山に登って大阪湾・神戸の街遠望に
- ◎ 2018.2.18. 神戸の南京町の春節祭 久しぶりに街へ 街は大勢の人でにぎわいました
- ◎ 2018.2.21. 急に暖かくなって 各地の梅便りのニュースに毎年春を知る郷 西神戸神出へでも 雌岡山梅林では まだ一輪も咲いておらず。でも久しぶりの里が心地よい
- ◎ 2018.2.24. 暖かい日が続き、ふと思い出した琵琶湖早咲きの菜の花畑
一面を黄色にする早咲きの菜の花畑に元気をもらいに・・・
- ◎ 2018.2.26. 急に暖かい日が続くこの 1 週間
須磨毎日 walk の道すがら、須磨離宮公園の入口に 梅満開の案内が・・・半信半疑で離宮公園の梅林へ・・・紅白の梅が今を盛りと満開に・・・
また 今日 神戸春の風物詩 いかなご漁解禁に!! うれしい神戸の春到来。
- ◎ 2018.2.27. 待ち兼ねた春 神戸に春が来た。うれしい神戸の春到来
うきうき顔で、街を歩くと あちこち 街角で咲き始めた梅の花。



度重なる寒波もやっとおさまって、家籠りから抜け出して、また、好奇心いっぱいのwalking再開
澄み渡る青空 静かな獅子が池には飛来した鴨が遊び、高取山に登って 大阪湾・神戸の街遠望
眺める街も海も 青空に鮮やかに映えて、近し 久しぶりに生駒山が遠望できました 2018.2.17.



春節を祝う人たちの明るい笑顔があふれる神戸の街 2018.2.18. 元町 南京町で 春節祭

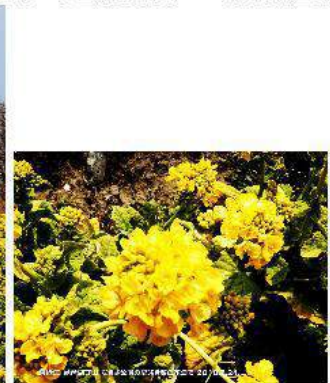
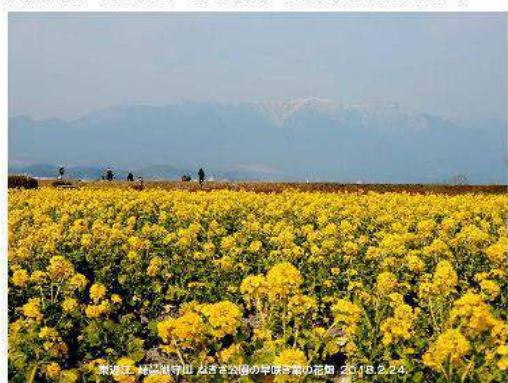
暖かい日が続き、ふと思い出した 東近江守山琵琶湖岸に咲く早咲きの菜の花畑 2018. 2. 24.

雪を戴く比良の山をバックに 一面を黄色にする菜の花畑に元気をもらいに・・・



東近江路 久しぶりに琵琶湖東岸の湖岸道路を北の守山へ

琵琶湖の向こう 比叡・比良の山々を眺めながらの快適なドライブ 今日は春ウララ 2018.2.24.



東近江 琵琶湖大橋北 守山市 なぎさ公園の早咲きの菜の花畑 2018. 2. 24.

正面に琵琶湖越しに 雪を戴いた比良 蓬萊・打見山
見たかった早春一番の景色 雪景色をみたかったフラストレーションも晴れ晴れ



東近江 琵琶湖守山 なぎさ公園から琵琶湖越しに眺める比良 蓬萊・打見山 2018.2.24.

帰りは琵琶湖大橋を渡って琵琶湖西岸を堅田-和邇-近江木戸-北小松-近江舞子-高島と巡る 2018. 2. 24.
学生時代によく通った比良の山裾 地名を懐かしみつつ、湖の中に鳥居がある近江最古の社 白髭神社へ

暖かな日差しの中、久しぶりに見る雪を戴いた比良の姿と一面を黄色に染める菜の花畑に気分ランラン
白髭神社に行けたのも収穫 残雪の残る近江の里にはであえませんでした、近江路も もう春です

須磨離宮公園の梅 紅白の梅が今を盛りと咲き誇り、2018年の春を告げていました 2018.2.26.

「須磨離宮公園の梅が満開を迎えている」と聞いて 半信半疑で訪れました。
つい先日訪れた時にもまだ蕾は固く、須磨の梅はまだ先だと思いましたが...
紅白の梅が今を盛りと咲き誇り、2018年の春を告げていました

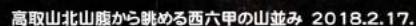
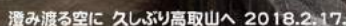
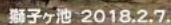
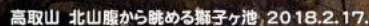


弥生3月 うれしい 神戸の春到来 身も心もリフレッシュ 元気だしてゆこう!

2018. 3. 1. by Mutsu Nakanishi



この寒い2月を凌ぎませうとくれた梅の花にも感謝の春到来
真っ赤な色も鮮やかに 須磨離宮公園梅園で 2018.2.26.

[illegible]



高取山北山麓から眺める菊水山 2018.2.17.



若草山住宅地の下 車集落の田園地 2018.2.17.



妙法寺 車集落の田園地から眺める春のたそがれ 2018.2.17.



春節を迎えて賑わう神戸三宮 2018.2.18.



春節 神戸 南京町で 2018.2.18.



春節祭 神戸 南京町で 2018.2.18.



春節祭 神戸 南京町で 2018.2.18.



原チャリを走らせ、いつも早春を駆ける西神戸神出 越岡山へ
神出神社から南 田園地帯の眺め 2018.2.21.



早春の美しい景色を作る黒岡山の梅林もまだ梅の蕾固し
西神戸神出 黒岡山東山麓の梅園から 黒岡山を眺める 2018.2.21.



早春の琵琶湖東岸 湖岸道路 比叡山を眺めながら北へ 2018.2.24.



早春の琵琶湖東岸 湖岸道路から眺める琵琶湖大橋 2018.2.24.



早春の琵琶湖東岸 湖岸道路から眺める琵琶湖大橋 2018.2.24.
背後に雪を戴く比叡連峰、遠く、打見山がすぐそこ



東近江 琵琶湖守山 なぎさ公園の早咲き菜の花畑 2018.2.24.



今年は大寒波襲来で 早春の花の咲くのが遅れた2月
雪を戴く比叡の山々を背に一面の菜の花畑
雪山と真っ黄色の菜の花畑が見たくなって
東近江 琵琶湖守山 久しぶりに なぎさ公園の早咲き菜の花畑を訪ねました
2018.2.24.

東近江 琵琶湖守山 なぎさ公園の早咲き菜の花畑 2018.2.24.



早春の琵琶湖東岸 湖岸道路から眺める琵琶湖大橋 2018.2.24.



琵琶湖越しに雪を戴く比叡連峰、遠く、打見山を背に
東近江 琵琶湖守山 なぎさ公園の早咲き菜の花畑 2018.2.24.



東近江 琵琶湖守山 なぎさ公園の早咲き菜の花畑で 2018.2.24.



菜の花畑の背後に、久しぶりに見る雪を戴く連葉・打見山に満足感一杯。2018.2.24.

東近江 琵琶湖守山 なぎさ公園の早咲き菜の花畑。2018.2.24.

久しぶりに見る雪の比良連峰。そして満開の菜の花畑の明るさに満足感一杯で、なぎさ公園をあとにする。
 帰りは琵琶湖大橋を渡って琵琶湖西岸へ。
 比良の山裾を北に走れば、まだ雪が残る里が見られるかも。
 また、湖の中に鳥居がある近江最古の社白髭神社はどうなっているのだろうか。
 比良の山裾に沿って、堅田・和邇・近江木戸・北小松・近江舞子から高島の白髭神社へ湖岸道路を北へ巡り、堅田へ戻って朽木街道途中から大原を抜けて京都へ帰ってきました。



東近江 琵琶湖守山 なぎさ公園から琵琶湖越しに眺める比良・連葉・打見山。2018.2.24.



東近江 琵琶湖守山 なぎさ公園の早咲き菜の花畑。2018.2.24.



琵琶湖大橋を西に渡ると湖西線 堅田駅前。湖西線の後ろに比良・連葉・打見山。2018.2.24.



琵琶湖西岸を北へ。比良。左:連葉・右:打見山がすぐそばに...近江木戸周辺で。2018.2.24.
 打見山は現在は琵琶湖パレーの観光地。かつてはカーレータ。今はロープウェイが山頂をつなぐ。



琵琶湖西岸を北へ。比良。左:連葉・右:打見山がすぐそばに。近江舞子周辺より。2018.2.24.



琵琶湖西岸を北へ。比良。左:連葉・右:打見山がすぐそばに。北小松周辺より。2018.2.24.



白髭神社 湖中鳥居 高島市錦川。2018.2.24.
 鳥居の向こうに沖ノ島がかすんでいるが、今日は良く見えなかった。



琵琶湖湖畔に建つ 近江龍古の社 白龍神社 高島市鶴川 2018.2.24.



白龍神社 湖中鳥居 高島市鶴川 2018.2.24.
鳥居の向こうに沖ノ島がかすんでいるが、今日は良く見えなかった



近江龍古の社 白龍神社 高島市鶴川 2018.2.24.



須磨離宮公園の梅
2018.2.26.

「須磨離宮公園の梅が満開を迎えている」と聞いて、半信半疑で訪れました。つい先日訪れた時にもまだ雪は降り、須磨の梅はまだ先だと思いましたが...紅白の梅が今を盛りと咲き誇り、2018年の春を告げていました



須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.



須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26



須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.



須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.



須磨離宮公園梅園で 2018.2.26.



ヒヨドリと思いますが、鶯も花をついはかに 須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.



須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.



須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.



須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.



須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.



須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.



須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.



「まだか まだか」と待った2018年春 須磨の梅 うれしい春の到来
須磨離宮公園の梅園で 2018.2.26.



この寒い2月を楽しくしてくれた梅の花にも感謝の春到来
真っ赤な色も鮮やかに 須磨離宮公園梅園で 2018.2.26.



今日 2月26日 春の風物詩 いかなご漁解禁
これで 神戸の街も活気に満ちて うれしい神戸の春



今日 2月26日 春の風物詩 いかなご漁解禁
これで 神戸の街も活気に満ちて うれしい神戸の春

いかなご漁は今年も不漁のようですが、神戸の春の食卓には欠かせない。
風色に入って 新子の登壇け・ききでいっぱい
我が家にも、うれしい神戸の春の訪れです。 2018.2.26.夕



西六甲須磨アルプス東山よりの遠望 2018.2.27.



我が家のある若草山の住宅地を正面に遠望
初めて歩く横尾道の東端から東山・鳥の背への登山道より 2018.2.27.



早春walk from Kobe Suma うれしい神戸の春到来

- ◎2018.2.7. 住宅の東側 鶴崎の浦に隠れている番子が池に亀が来ていました
- ◎2018.2.14. 昨年はバツした遺付申告。 無税事務所からの住民税申告の申告書。遺付はほとんどなしですが、同じ事ならやり方が解っている遺付申告で、申告を済ませ、納税満了へ。でも、まだ梅の香は強い。
- ◎2018.2.17. 遊び回る真空 高取山に登って、大阪湾・神戸の街を望む
- ◎2018.2.18. 春節が始まった元町南京町 街は大勢の人でにぎわいました
- ◎2018.2.21. 急に暖かくなって、各地の梅便りのニュースに西神戸神出の鶴崎山梅林へでもまだ一輪も咲いておらず。
- ◎2018.2.24. 暖かい日が続き、ふと思い出した琵琶湖甲斐の草の花畑一面を黄色にする甲斐の草の花畑に元気をもらいに----
- ◎ 2018.2.26. 須磨毎日walkの道すがら、須磨離宮公園の入口に 梅満開の案内が----半信半疑で離宮公園の梅林へ----。紅白の梅が今を盛りと満開に----。また、今日 いかなご漁が解禁に----
- ◎2018.2.27. 平年並みとはいきませんが、うれしい神戸の春到来。神戸に春が来た。そんな目でうきうき半信半疑で、街を歩くとあちこちが梅が咲き始め、満開の春到来。

やっと暖かくなり始めた2018年2月下旬

梅の花が満開となり、神戸の春を告げるいかなご漁も始まり

3月1日 深夜 春一番が吹き荒れ、待ち兼ねた春はもうすぐそこに神戸の春の到来です

今日 2月26日 春の風物詩 いかなご漁解禁
これで 神戸の街も活気に満ちて うれしい神戸の春



2018 Walk
03

【 2018 春 写真アルバム 】

春の嵐が吹き荒れた翌日の“物好き Walk”

2018. 3.21.午後 by Mutsu Nakanishi 「」

妙法寺から須磨アルプス東端の東山を超えて、南の板宿へ歩く



春の嵐が吹き荒れた翌日 まだ、強い風が吹く寒い3月21日 妙法寺から須磨アルプス東端の東山を越えて、南の板宿へ歩く。 目的はいつもすっかり見えぬ大阪湾対岸の二上山が見えるかもと

また、東山から板宿へ下る古道は椿の道 昨日の大風で、落下した椿が道を敷き詰めているのをイメージして。 そんな期待をこめて、まだ、不安定な天候の中、ちょっとした晴れ間に、妙法寺の駅からまっすぐ須磨アルプスの東端東山を目指す。

風と弱い雨がまだ残り、時折晴れ間がのぞく、曇天の中の“小さな春を探すもの好き walk “です。

でも、この1年何度も期待が外れ続けた二上山の姿を見ることができました。

また、イメージしていた椿の道にも出会え、うれしい小さな春を見つけました。 2018.3.21.夕



1. 妙法寺駅から南へ 横尾道の西六甲縦走路・東山登り口から東山へ



妙法寺駅の南 須磨アルプス(東山 - 馬の背-横尾山)の北山腹を巡る散策路 横尾道より 2018.3.21.



視界が開けぬ隼人氏の中 シグザグながら、東山の北山腹を頂上まで登る急な階段道が続く



東山登山道から眺める北西側名谷ニュータウンから北東側高取山周辺の景色



階段道を登り切って、頂上近く岩場に出ると、西に荒々しい須磨アルプスの姿が見える



岩場の西北端から眺める東山山腹北側の景色 2018.3.21.



南へ傾斜道を登れば早くもなく東山頂上である。 2018.3.21.

岩場の北側を回り込みながら南へ登りきると東西に延びる西六甲全山縦走路が稜線に延びる東山頂上山
南の海岸側がぱっと開け、大阪湾 西に 須磨アルプス馬の背の景観が広がっている



須磨アルプスの東端 東山頂上 正面が南 海岸側 2018.3.21.
道標の左側で西六甲の縦走路に合流 右に馬の背・横尾山 左に高取さんへ



小雨湿じりの強風が吹き荒れる中 馬の背に一人 人影が見える 2018.3.21.

須磨アルプス 馬の背の岩稜の稜線縦走路 陽が照っていないので余計にくっきりと見える 東山の頂上より 2018.3.21.

2. 須磨アルプス東山の頂上から大阪湾の展望



昨夜の嵐が残って白まぐるしく変わる天候ですが、霧が吹っ飛んで海み渡る
東山頂上から眺める南の海岸線 期待通り 紀淡海峡がくっきりと 2018.3.21.



東山頂上から眺める西南側 馬の背・嵯峨山から鉄駒・旗振山・鉢伏山と続く西六甲の西端



東山頂上から眺める北東側 高取山から西六甲の山並みが続く 2018.3.21.



東山から 東から南東側 神戸市街地越しに大阪湾の眺望 2018.3.21.
正面には 水越峠 葛城・金剛の山並が見える

葛城山・水越峠・金綱山と続く金剛連山ははっきり見えるのですが、連山の左端の二上山やその左にある生駒山は煙っていて 残念ながらよく見えない。ところが、刻々と変化する天候の中で、薄っすら二上山が薄っすら見えてきた。この1年 縦走路に出るといつも探していた二つこぶの二上山が 念願になって やっと見られた。



白まぐるしく変わる天候 大阪湾沿岸を眺めている間に神戸市街・神戸空港の向こう対岸の連山の中に二つこぶの二上山が見えた
2018.3.21.



ほかにも、紀淡海峡に浮かぶ友ヶ島がくっきりと。

また、神戸の市街地もいつもに増しくっきり見えて、春の嵐の効果は絶大です。



二上山の左には信貴・生駒野兼山も見え、二上山の背後には、三輪・巻向の山並み？ また、特定はできませんでしたが、金剛連山の後ろには 大峰の山々も見えていたのだろう。ホント ラッキー。登ってきたいがありました。

3. 東山から南の板宿への尾根筋道・椿の道を下る





東山送電鉄塔から板宿への下り道は椿の道 2018.3.21.



東山送電鉄塔から板宿への下り道は椿の道 2018.3.21.



東山送電鉄塔から板宿へ下る下り道は椿の道
下り道の両側(両山)に多くの赤い花が落ちている。 2018.3.21.



東山送電鉄塔から板宿への下り道は椿の道 2018.3.21.



東山送迎社前から板宿への下り道は椿の道 2018.3.21



東山送迎社前から板宿への下り道は椿の道 2018.3.21

4. 椿の道・椿のトンネルを抜けると眼下に板宿の街 人家はないが、里道に



椿の道を抜けると視界が開け、海岸部の街が見える
2018.3.21.



椿の道を抜けると視界が開け、海岸部の展望
2018.3.21.



また、林の中に入り、板宿神社への道をたどる。
また、人家はないが、あかるい里道に 2018.3.21.

もう 山桜が咲きだしている。先日 ここを歩いた時 満開に見えた道脇の桜はもう散り始めていました。
ここは南面の明るい場所で随分暖かいのだろう。 板宿の街はもうすぐ下である。
人家はないが、あかるい里道に 2018.3.21.



前回通った時に、花いっぱいつけていた桜がもう散っていました ここは随分暖かいようだ 2018.3.21.





東斜面へ尾根を下れば、斜面の中腹にある板宿八幡
板宿の街へおりてきました 2018.3.21.



斜面の中腹にある板宿八幡 板宿の街へおりてきました
2018.3.21.



春の嵐が吹き荒れた翌日 まだ強い風が吹く寒い3月21日
妙法寺から須磨アルプス東端の東山を越えて南の板宿へ。
時折青れ間がのそく、曇天の中の“もの好き walk”です。
でも、この1年何度も期待が外れ続けた二上山の姿を
見る事ができました。
また、イメージしていた椿の道にも出会えました。
うれしい 小さな春です。

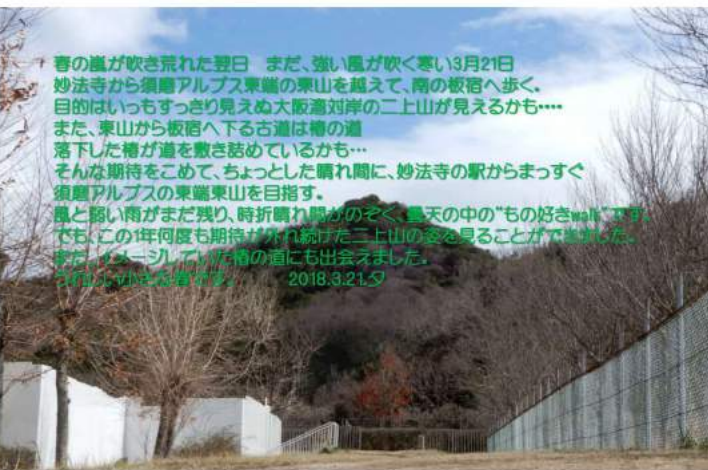




春の嵐が吹き荒れた翌日の“物好きWalk” 妙法寺から須磨アルプス東端の東山を越えて、南の板宿へ歩く

2018.3.21.午後 by Mutsu Nakanishi

妙法寺横尾道より、須磨アルプスの東端 東山を眺める 2018.3.21.



春の嵐が吹き荒れた翌日 まだ、強い風が吹く寒い3月21日
妙法寺から須磨アルプス東端の東山を越えて、南の板宿へ歩く。
目的はいつもすっかり見えぬ大阪湾対岸の二上山が見えるかも…
また、東山から板宿へ下る古道は糖の道
落した糖が道を敷き詰めているかも…
そんな期待をこめて、ちょっとした晴れ間に、妙法寺の駅からまっすぐ
須磨アルプスの東端東山を目指す。
風と弱い雨がまだ残り、時折晴れ間がのぞく、曇天の中の“もの好きwalk”です。
でも、この1年何度も期待が外れた二上山の姿を見ることができました。
また、イメージしていた糖の道にも出会えました。
2018.3.21.夕



横尾団地 椿谷から眺める須磨アルプス 左:東山 中央:馬の背 右:横尾山



横尾団地 椿谷から眺める須磨アルプス東端 東山 2018.3.21.



妙法寺-東山-板宿walk 行程概略 2018.3.21.



妙法寺-東山-板宿walk 行程概略 2018.3.21.



椿谷道から 東山・八甲縦走路登り口へ 2018.3.21.



妙法寺 横尾道から 東に高取山を眺める 2018.3.21.
後ろ 鶴越の向こうに菊水山・摩耶山が見えている



妙法寺 横尾道で 2018.3.21



横尾道 東山・六甲縦走路登り口 2018.3.21



東山・六甲縦走路への登山道 シグザグに山腹をほぼ直登 2018.3.21.
妙法寺からは東側にもう一本 東側から登る登山道がある



東山の北山腹から北西 名谷のニュータウンの奥に
高御位山が見えている 2018.3.21.



東山の北山腹から東に 樹木越しに高取山の頂上が見える 2018.3.21.



東山の北山腹の登山道 後半はほとんどが階段状の登山道 2018.3.21.



東山の北山腹より 高取山から続く西六甲の山並 2018.3.21.
今日は風もあり、良く澄んで遠望が効く 山頂での展望が期待できる



東山山頂まじか 北山腹を一旦東に巻いて、そこから頂上へ 2018.3.21.



東側から再度階段の急な登り この上で一旦視界が開ける もうすぐ頂上
2018.3.21.



登りきった所は視界の開けた岩場 2018.3.21.
岩場に立つと西に馬の背から岩稜がそそり立つ横尾山が見える



岩場に立つと西に馬の背から横尾山へと続く荒々しい稜線尾根 2018.3.21.
そそり立つ横尾山が見える 須磨アルプスの核心部である



東から登った岩場の北端から左へ岩場を登る 2018.3.21.



岩場の西北端から眺める東山山腹北側の景色 2018.3.21.



南へ続く道を登ればもなく東山頂上である 2018.3.21.



須磨アルプスの東端 東山頂上 正面が南 海岸側 2018.3.21.
道標の左側で西六甲の縦走路に合流 右に馬の背・横尾山 左に高取さん



東山頂上から眺める横尾山 と 左奥 樽尾山 2018.3.21.



昨夜の風が残って目まぐるしく変わる天候ですが、霧が吹っ飛んで澄み渡る
東山頂上から眺める南の海岸線 期待通り 紀淡海峡がくっきりと 2018.3.21.



東山頂上から眺める西南側 馬の背・横尾山から鉄拐・旗振山・鉢伏山と続く西六甲の西端



東山頂上から眺める北東側 高取山から西六甲の山並みが続く 2018.3.21.



樹木に囲まれた奥の山頂の東山の頂上部 2018.3.21.
高所から下をのぞくと、大阪湾・大阪本を中心とした大展望が広がる。



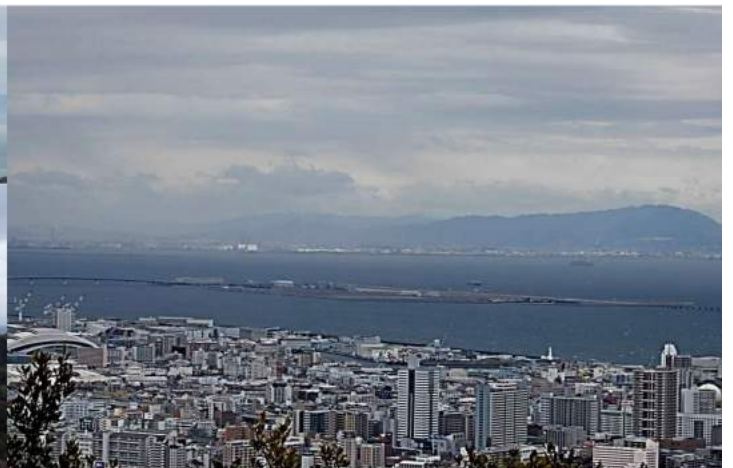
大阪湾の対岸に二上山を探す。右端に葛城/金剛山の鞍部水越峠が見えるのですが、いつもと同じ。二上山周辺はちやってよく見えぬ、今日もダメかと**2018.3.21.



小雨淫じりの強風が吹き荒れる中、馬の背に人影が見える 2018.3.21.



東山頂上から眺める南の海岸線 西六甲の西端の山々の奥 淡路島と和歌山に挟まれた紀淡海峡がくっきりと 2018.3.21.



目まぐるしく変わる天候 大阪湾沿岸を眺めている間に神戸市街・神戸空港の向こう対岸の連山の中に、二つばかりの山屋見えた 2018.3.21.



大阪湾沿に浮かぶ神戸空港の向こう対岸の連山の中に、ここ1年 はっきりした姿をとらえられなかった二上山が見えた 2018.3.21.



須磨アルプス東山から葛城連山 二上山遠望 2018.3.23.



須磨アルプス東山から 葛城連山 二上山遠望 2018.3.23.
やっとみられたうれしい姿です。



須磨アルプス 東山から馬の背・横尾山の稜線尾 2018.3.23.



須磨アルプスの東端 東山頂上 正面が南 海岸側 2018.3.21.
道標の左側 西六甲の縦走路を 東へ高取山・板宿へ下る



東山頂上から樹木の中 高取山へと続く縦走路を東へ 板宿へ下る 2018.3.21.



東山頂上から樹木の中 高取山へと続く縦走路を東へ 2018.3.21.



東山頂上から樹木の中 高取山へと続く縦走路を東へ 2018.3.21.



東山頂上から樹木の中 高取山へと続く縦走路を東へ 2018.3.21.
東山送電鉄塔展望台周辺







人家はないが、あかるい里道には、もう山桜が咲き始めていました 2018.3.21.



東斜面へ尾根を下れば、斜面の中腹にある板宿八幡
板宿の街へおりてきました 2018.3.21.



斜面の中腹にある板宿八幡 板宿の街へおりてきました
2018.3.21.



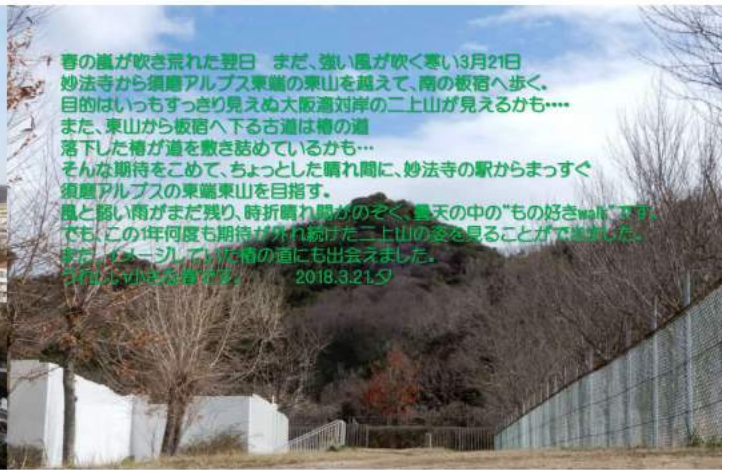
斜面の中腹にある板宿八幡神社 2018.3.21.



板宿八幡神社からながめる板宿の街 2018.3.21.



板宿八幡神社からながめる北東側の高取山 2018.3.21.



春の嵐が吹き荒れた翌日 まだ、強い風が吹く寒い3月21日
妙法寺から須磨アルプス東端の東山を越えて、南の板宿へ歩く。
目的はいつもすっかり見えぬ大阪湾対岸の二上山が見えるかも…
また、東山から板宿へ下る古道は椿の道
落下した椿が道を敷き詰めているかも…
そんな期待をこめて、ちょっとした晴れ間に、妙法寺の駅からまっすぐ
須磨アルプスの東端東山を目指す。
嵐と強い雨がまだ残り、時折晴れ間がのぞく、曇天の中の“もの好きwalk”です。
でも、この1年何度も期待が外れ続けた二上山の姿を見ることができました。
まだ、イメージしていた椿の道にも出会えました。
2018.3.21夕



春の嵐が吹き荒れた翌日の“物好きWalk”

妙法寺から須磨アルプス東端の東山を越えて、南の板宿へ歩く

2018.3.21.午後 by Mutsu Nakanishi

大阪湾全体を見渡せるチャンス
また、東山から板宿へ イメージ通りの椿に覆われた椿の道
「山道をたどれば、何かある」 物好きwalk
満足一杯。今日は祝杯だと。

2018.3.21. 板宿から妙法寺へ 神戸三木線を歩きながら



小雨湿りの強風が吹き荒れる中、馬の背に人、人影が見える。 2018.3.21



大阪湾沿に浮かぶ神戸空港の向こう対岸の連山の中に
ここ1年 はっきりした姿をとらえられなかった二上山が見えだした

2018.3.21.

【2018 年春のPhoto アルバム】

2018 Walk
04

古代たたらの郷 西播磨「佐用」の春 2018 2018.3.31

春の妖精「カタクリの花」と佐用の一本桜 漆野の「大糸桜」を今年も訪ねました

春の妖精「カタクリ」の花
カタクリの里 弦谷・殿崎で

古代たたらの里佐用を流れ下る千種川



志文川の桜堤 宝蔵寺で

たたらの山里西播磨佐用に
2018春を訪ねる 2018.3.31.

たたらの里漆野の一本桜「大糸桜」

北の千種川から南の佐用へ流れる千種川
千種川に沿って下る千種川の風景

1. 漆野 光福寺一本院堂の一本桜 大イトザクラ
2. 東徳久カタクリの里殿崎のカタクリ
3. 旧三日月町 弦谷のカタクリ
4. 旧三日月町 志文川の桜堤



愛らしい春の妖精「カタクリの花」
花言葉は「初恋」・「寂しさに耐える」
陽が陰り始めた山の斜面で
まだ冷たい風に立ち向かって身をふるわせる
私の一番好きな花の一つ



街や村の近くで、そっと寄り添い
見守ってきた「一本桜」
一本だからこそその青空に映る美しさ
堂々とした姿にも 思い入れがある
「一本桜」への思いも ひとそれぞれ
ドラマがある



春の訪れを待ちかねて

毎年 千種川が流れ下る 西播磨の古代たたらの山郷佐用へ

出会いに行く「カタクリの花」と「一本桜」

今年も出会えてうれしい2018年の春 元気をもらって 思いも新た



今年は春の花が例年になく一機に咲いて
「三春どころか四春??・五春?」に
神戸の桜満開 随分早い猛スピードの春に、
昨年より随分早いのですが、春の妖精
「カタクリ」と満開の桜が彩る千種川沿い
の古代たたら山郷を訪ねました。



今年は家内の運転で 満開の桜が彩る山崎
断層を抜け切窓峠を抜けての山郷左用への
ドライブでした。

春の到来 待ちかねた古代たたたらの里

千種川が流れ下る山間 徳久殿崎 & 旧南光町鶴谷に咲く春の妖精「カタクリの花」と満開の花をつけた枝を大きく広げて、集落を見守る立堂々とした姿に魅了される佐用光福寺一本堂の一本桜の「大糸桜」の元気な姿 届けます。

毎年楽しみな2018年 佐用の春のアルバムです。

1. 漆野 光福寺一本堂の一本桜 大イトザクラ



千種川の下流側から左手 漆野本村への入口の郷を眺める 2018.3.31

下野から千種川は山間を大きく西へ カーブして、佐用徳久地区に入る。

中国道の高架橋をくぐると漆野の集落。東の本村と西の段集落が川の両側に。

大糸桜のある本村の集落は奥の山の中に隠れている。どんな姿で大糸桜が迎えてくれるのか、期待がいっぱい。

川岸から本村の集落に通じる谷あいを取り込む狭い曲がりくねった坂道を少し登ると視界が広がり、集落の中へ。高台集落の一番奥の高台に光福寺があり、満開の花をつけた大糸桜が見えた。一年ぶりの出会いです。



集落への狭い道を集落に入ってく、家並みの中右手高台に光福寺が見え、満開の花をつけた大糸桜の美しい姿が見える。



佐用 千種川が流れ下るたたらの里 漆野の一本桜
播磨一本堂(光福寺)の大糸桜 佐用町 東徳久 漆野

古代から開けたたたら山郷 糸粟と佐用を結ぶ県道53号の街道筋。
下三河のT字路から、北の千種川から南へ三河谷を流れ下る千種川沿いに 少し西へ入った旧南光町東徳久地区の漆野。
その本村地区にある光福寺は1696年に再建された時に1本のケヤキから建てられたため、近隣の人たちから「播磨一本堂」と呼ばれるようになった。

この再建を記念して境内に植えられた枝垂れ桜は、樹齢300年、根回り8m、高さ13mで、毎年春になると、枝一杯に糸を垂らしたような花姿で、鐘楼を包み込むように花を咲かせる。
その姿は華麗 幻想的で「播磨一本堂の大糸桜」と呼ばれる西播磨の一本桜となった。特に垂れ下がった枝の長さがひととき美しい。

千種川が流れ下るこの漆野周辺は古代のたたら製鉄地帯で、早くから開けた街道筋。春になると漆野集落で満開の花をつけ、華麗な姿を見せる糸桜はこの街道筋・漆野集落のシンボルであり、誰言うことなく「播磨一本堂の大糸桜」と呼ばれ、親しまれ、今もこのたたら山郷・街道筋のシンボルとして守り継がれている一本桜である。
毎年春 カタクリの花が咲く頃 山郷佐用を訪ねるうちに、この糸桜の美しい姿に出会い、春佐用を訪ねる楽しみの一つとなりました。
もっとも カタクリと漆野の大糸桜が満開の花をつける時期が異なり、両方を一気に見られることは少ないのですが、今年もまた、満開の素晴らしい大糸桜の姿を見ることができました。



古代たたら山郷に咲く一本桜
佐用漆野 播磨一本堂(光福寺)の大糸桜



2. 東徳久カタクリの里殿崎のカタクリ



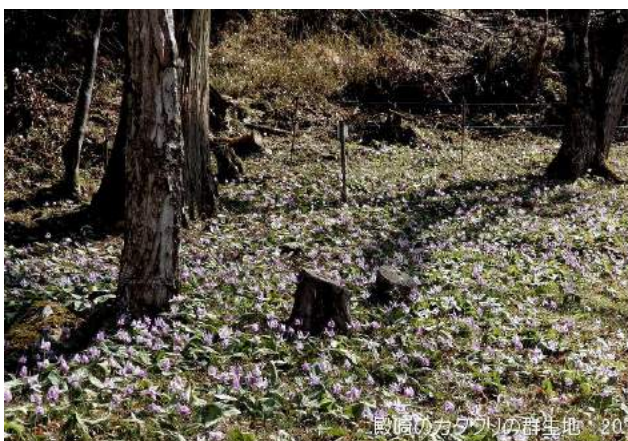
漆野から千種川に沿って 山間を少し下ると、南北を山に挟まれて、千種川の南側の可岸段丘に田園が広がる徳佐の中心部。その入口 千種川と山に挟まれた狭い場所に広がる殿崎の集落で狭い集落内の道を抜けた山裾の傾斜地に、カタクリの群生地が広がっている。

交通の便が悪いので、あまり知られていないカタクリの郷。それだけに静かで、ゆっくりカタクリの花に出会える好きな場所。去年は訪れた時期が遅れ、元気に咲くカタクリが少なかったのですが、今年はどうだろうかと期待一杯で、千種川沿いを下る。



集落のすぐ横の山裾斜面に広がる殿崎のカタクリの群生地全景 2018.3.31.

誰も姿が見えず、一瞬今年もおそかったのか・・・と不安にかられましたが、日陰になった奥の斜面地に紫色のカタクリの花が斜面一杯に広がり、近寄るとまっすぐ立ち並んで、春の風に身を震わせているのが、まじかに見える。うれしい出会いです。



春の妖精 カタクリの花

8 年間地中で暮らして、花を咲かせる。

氷河期の生き残りの花

花言葉は 初恋・寂しさに耐える

わたしにはもう一つ

春まだ冷たい風に 真っすぐ顔を向け、

身を打ち震わせて、立ち向かう姿に

心ゆさぶられ、一番好き

毎年元気をもらうカタクリの花

今年も沢山のカタクリの花に出会えました



カタクリの花に近寄って カメラを向けている人によると、
「カタクリの花の花弁の中に桜の花が潜んでいる。

その姿が一番美しく、それを狙って、カメラを向ける。

カタクリに春を見る」と聞く。

模様があるのは知っていましたが、その模様を桜とみるのは
知りませんでした。

後で、知ったのですが、「蜜標」と呼ばれ、蜜のありかを
虫に教えるためとされる模様で 桜の花の形とみたと
いう。

初めて聞く話にカタクリの花をのぞき込む。そういわれれば、花弁の中の模様が桜にみえる。

昨年夏 京都虫の眼展 可視光領域が狭く、赤がよく見えない虫の眼。 虫は花粉などの色がよく見え、
それに導かれて、密にたどり着くと知りましたが、この「蜜標の桜」虫たちにはどんなふうに見えているのでしょ
うか??? おそらく 花の奥に潜む「桜の花」がくっきり見えて、「密」に導かれるのだろう。

また、ひとつ新しい見方を教えてもらいました。

佐用のカタクリの里 徳久殿崎の春の妖精「カタクリの花」2018







殿崎から千種川沿いに少し下ると、毎年夏 ひまわり畑が作られる広い河岸段丘 徳久林崎の若鮎ランド。

この林崎から、南側の山並みにある卵の山峠を越えれば、西で千種川と合流する志文川が流れ下る旧三日月町地区。

目指すカタクリの里 弦谷 そして志文川に並行して姫新線が走る有名な写真スポットの桜堤がある。

弦谷のカタクリの里の山裾では 食事ができないので、桜満開の田園風景が広がる林崎若鮎ランドの千種川桜堤で昼食に



佐用徳久 林崎 若鮎ランドの千種川 桜堤で 2018.3.31.

3. 旧三日月町 弦谷のカタクリ

うれしい2018年春の佐用のカタクリ walk 毎年たずねるもう一つの群生地 弦谷へ
林崎から東へ卯の山峠を越えて旧三日月町へ志文川が流れ下る旧三日月町 カタクリの里弦谷
そしてそのすぐ近く志文川の桜堤へも寄ってかえろう



林崎から南へ 旧三日月町むへ山越えの卯の山峠 2018.3.31.

林崎から南へ 旧三日月町むへ山越えの卯の山峠 南に志文川沿いの桜堤が見えているが、峠を下って、山に隠れている左側に折れて、志文川を渡って、正面に見える山並みの入口のところが、カタクリの里弦谷である。



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.



三日月に入って 姫新線に沿って東に向かい、三日月のT字路で、南へ志文川を渡り、スプリング8のある光都・相生へ向かう山越えの幹線道路の山間へ入る入口。川の右手住宅の奥の山裾の山の斜面の雑木林が群生地である
毎年春 佐用のカタクリの花を訪ねるところ。

午後には日陰になる急な傾斜地。冷たい風に身を震わせて立ち向かう姿が美しい一番の地。

今年はどんな姿のカタクリにであえるだろうか・・・



ひっそりとした傾斜地の山影で、春まだ冷たい風に 真っすぐ顔を向け、身を打ち震わせて立ち向かう
弦谷のカタクリの姿に 毎年元気をもらう 一番好きなカタクリの姿です



佐用のカタクリの里 旧三日月町弦谷の春の妖精「カタクリの花」2018



弦谷の群生地で 数株しかみられぬ白いカタクリの花
 今年ではあえるだろうか? どうだろうか?と斜面を探す。
 元気に風に立ち向かっている姿を見ることができました。
 出現率 一万分の一程度だという。
 ことしうれしい出会いです。
 本当に今年はラッキー 数多くの元気な姿に出会えました。



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.

4. 旧三日月町 志文川の桜堤

弦谷から、そのまま南へ山を抜ければ、光都を通って、竜野・相生へ抜けられるのですが、志文川沿いの桜も見たくて、志文川沿いに戻る。

お目当ての場所は、昨年念願の並走する姫新線と志文川土手の桜堤の写真が撮れた、志文川沿い久保橋横の末広踏切。

佐用の桜の写真スポット。



今年もそんな景色を期待して行っただのですが、上下の電車が通過したところで、2 時間近く待たねばならないと聞き、あきらめ、志文川土手の桜堤を散策して、戻ることになった。





愛らしい春の妖精「カタクリの花」
花言葉は「初恋」・「寂しさに耐える」
陽が陰り始めた山の斜面でまだ冷たい風に
立ち向かって
身をふるわせる 私の一番好きな花の一つ
街や村の近くで、そっと寄り添い見守って
きた「一本桜」もまた、思い入れがある
「一本桜」への思いもひとそれぞれ
ドラマがある

春の訪れを待ちかねて 出会いに行く「カタクリの花」と「一本桜」
今年も出会えてうれしい2018年の春 元気をもらって 思いも新た
また、来年です

2018.4月 西播磨 佐用 弦谷から南へ 車を走らせながら
Mutsu Nakanishi

神戸 2018 年 過ぎ行く春の Photo Album 2018.5.3.



2018 年春 まだ 4 月に入ったばかりというのに、満開の桜が散ると野山も街も一斉に芽吹いて新緑に衣替え。今年の春は三春どころか四春・五春。あれよ あれよと猛スピードで春が駆け抜けてゆく。地球環境の激的な変化が我が身に迫る。すごいことがおこっているなぁと感じる 2018 年春 神戸の我々にとっては初めての経験。でも毎年春を待ちかねる北国や信州ではこんな具合なのかと。



年々早くなる春に戸惑いを感じ、何となくめいっばい喜べないような気分もちょっぴり。でも 待ちかねた春 今年も神戸の春 新緑をたのしまねばと毎日 good Day Now と風来坊 猛スピードで駆け抜ける 2018 年春の絶景をスライド動画と Photo アルバムにしました。

神戸 2018 年 過ぎ行く春の Photo Album 2018.4.27. File 収蔵サイト

- ◆ 【スライド 動画】 <http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1805sinryoku.mp4>
- ◆ 【Photo アルバム】 <http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1805sinryoku.photo.pdf>
- 《参考》 シャクナゲ 2018 森林植物園 石楠花谷 2018.4.27. File 収蔵サイト
- ◆ 【スライド 動画】 <http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1805syakunage2018.mp4>
- ◆ 【Photo アルバム】 <http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1805syakunagephoto.pdf>

毎日のwalk のなかで 毎年の春景色と共に気が付かなかった絶景や昨年は見られなかった景色にも幾つか出会うことができました。年々季節の感覚が狂って、その振幅が大きくなっている春の訪れ。
 歳と共に年齢からくね感覚も加わって、今年は特に素直に春爛漫を喜んでおられぬ思いをふっと感じています。
 でも 毎年この時期に作る身勝手な神戸の春のアルバムですが、私にはうれしいアルバム。
 毎日 Good Day Now 今を元気にと。 2018.5.3. from From Kobe Mutsu Nakanishi



1. 4.10 久しぶりに神戸の街にでて、諏訪山レインボーブリッジに登る
若者のデートスポットですが、久しぶりに神戸の街が眼下に広がる
2. 4.14. 穏やかな春の午後 鉄拐山より大阪湾が一望 穏やかな須磨浦の海に潮目がくっきり見える
須磨の春 春の海ひねもす のたりのたりかな
3. 4.20. 新緑に包まれた姫路城 新緑の中を舞う白鷺のごとし 緑のトンネルの中を歩く
鉄鋼マンとしての出発をした若者たちの一群が写真を撮っているのだから。
わたしにも昔こんな時代があったと懐かしく 若者たちにエールを送る
4. 4.23 自覚の角先も真っ赤なポピーが咲いて 華やかに いつもの春の角先に
5. 4.27. シャクナゲ 2018 盛りが過ぎたかと心配しながら、森林植物園 石楠花谷へ
今年も新緑の谷を埋め尽くす日本シャクナゲ 新緑の中に咲くハンカチの木や
ドウダンツツジにも出会えました。
谷の上部のホソバシャクナゲはいつもはこれからという時期ですが、ちょうど盛り
ドウダンツツジは「灯台躑躅」と書く。これは山口の「特牛・コトイ」級の難読や
6. 4.27. 東播磨古川の黒滝三木市吉川町の美裏川幅一杯 幅 30m、落差 4m の滝)
東播磨の田園が広がる「山田の里吉川」の街の中に落差は小さいが川幅一杯に流れ落ちる
こんな美しい滝「黒滝」がある。水辺が窓しくなってきた矢先、初めてたずねました
7. 5. 1. さわやかな五月の風に横尾道 のじぎくの丘の大空を泳ぐこいのぼり
8. 5. 3. 5月の連休はいつものごとく家で休養
待ちかねたアグロステンマの花が咲いて 5月の角先・庭に掉尾を飾るバラの香りが漂う
薫風5月 Good Day 今日元気に 孫たちも帰ってのんびりと







春の須磨浦をゆつたり、潮が流れる。 2018.4.14、鉄樹山より



2018春
新緑に包まれた姫路城 2018.4.20.



南側正面から眺める国宝姫路城。 2018.4.20.
青空をバックにそびえ立つ姿は本当に美しい



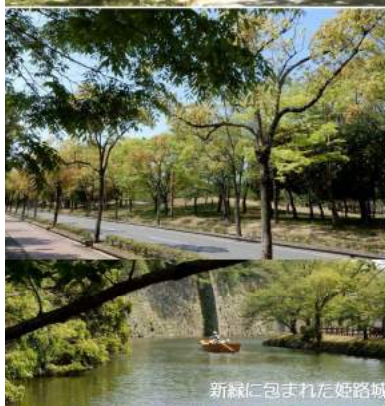
久しぶりに姫路城の北側、県立歴史博物館へ資料をもらいに出かけました。
南側は観光客でいっぱいですが、北側は新緑に包まれた落ち着いた空間
お城を見上げながら、お散歩をぐるりと一周、散策を楽しんで帰ってきました
2018.4.20.



新緑に包まれた姫路城の北側 散策路 2018.4.20.



新緑に包まれた姫路城 北側の散策路より 2018.4.20.



新緑に包まれた姫路城の北側 散策路 2018.4.20.



新緑に包まれた姫路城の北側 散策路 2018.4.20.



お城を巡る船が運行されていました
お城の大修理が完成して、姫路城の周りも大変
国宝姫路城と共に、姫路の街が大変
街の発展には、目を奪る 2018.4.20.



国宝 姫路城 2018.4.20. 南側正面より





2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



石楠花谷に入っすぐ、石楠花の花のトンネルの上、ハンカチの木が花をつけていました。2018. 4. 27. 六甲森林植物園



花を一杯つけたハンカチの木。2018. 4. 27. 六甲森林植物園



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



ホソバシヤクナゲは、例年、まだ蕾が多い4月末、今年ほど満開に近い、名残の多い満開が楽しめる効果でしょうか。今年ホソバシヤクナゲの花が谷の上部一帯を埋め尽くしていました。

2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で

清純な色合いが魅力的な日本シャクナゲ
今年も新緑の谷を埋め尽くす美しい姿に出会えました
今年は特にホンバシャクナゲが満開でラッキーでした

でも 季節感をじっくり味わう氷見もない今年の春の
スピードにはびっくり。
地球環境の変化をわが身にひしひしと感じる2018年春です



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で

新緑の森 森林植物園 散策

森林植物園内南のシアトルの森では西洋シャクナゲが花をつけ、
すぐ横のドウダンツツジも枝一杯に白い花をつけているとの案内。
森林植物園 新緑に包まれた森の午後、散策を楽しむ。



2018. 4. 27. 六甲森林植物園

新しい発見!!

ドウダンツツジは「灯台蘭属」と書くんだ
何年も春の白い花・秋の紅葉と
何年も出会って来て、初めて知りました
ドウダンツツジは「灯台蘭属」に属する植物で、
花言葉は「純潔」「純白」の意。
花言葉は「純潔」「純白」の意。
花言葉は「純潔」「純白」の意。

新緑の深い森の中、小さな白い花が重なり合って
新緑に素晴らしい濃淡をつける。
新緑の中でも一番気に入っているドウダンツツジ
今年も盛んでした



ドウダンツツジ
灯台蘭属
開花しています。



ドウダンツツジ 2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠谷入口



ドウダンツツジ 2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠谷入口



2018. 4. 27. 六甲森林植物園



西洋シャクナゲ 2018. 4. 27. 六甲森林植物園 シアトルの森で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で

シャクナゲ2018 森林植物園石楠花谷

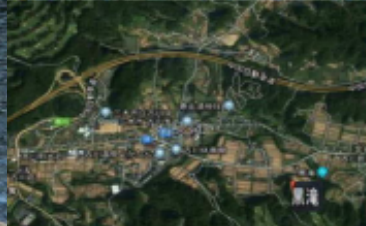
猛スピードで駆け抜けてゆく2018年の春
ちょっと盛りが過ぎたかと著と心配しながら、森林植物園 石楠花谷へ
アズマシャクナゲやツクシシャクナゲは少し盛りを過ぎていましたが、
谷の上部のホンバシャクナゲはちょうど盛り
今年も新緑の中に咲く日本シャクナゲの美しい姿に出会えました。
また、新緑の中に咲くハンカチの木やドウダンツツジにも出会えました



東播磨吉川の黒滝 2018.4.27.

(三木市吉川町の美賀川に7かかる幅30メートル、落差4メートルの滝)
東播磨の田園が広がる「山田の黒吉川」の街の中に
落差は小さいが川幅一杯に流れ落ちる。こんな美しい滝「黒滝」がある
幅がなくて一歩辺が悪くなってきた矢先、初めてたずねました。

四季折々、山あい、広がる田園地帯、郷の景色が見たくなると、
北の丹上山を越えて瀬河から、山田跡の里吉川(三木市吉川)へ
除チャリを走らせる。
そんな田園地帯の隅に、美しい滝があるのを初めて知りました。
それも、よく知る、中国自動車道ICや日帰り温泉「よかたん」のすぐそば
東西に広がる吉川の中央を流れる美賀川の川幅一杯にかかる滝
初めて、行きました。



中国自動車道吉川ICのすぐ東
県道17号沿い美賀川にかかる黒滝



2018.4.27. 東播磨吉川の黒滝



2018.4.27. 東播磨吉川の黒滝



美賀川南岸の丘より眺める黒滝 2018.4.27.



2018.4.27. 東播磨吉川の黒滝



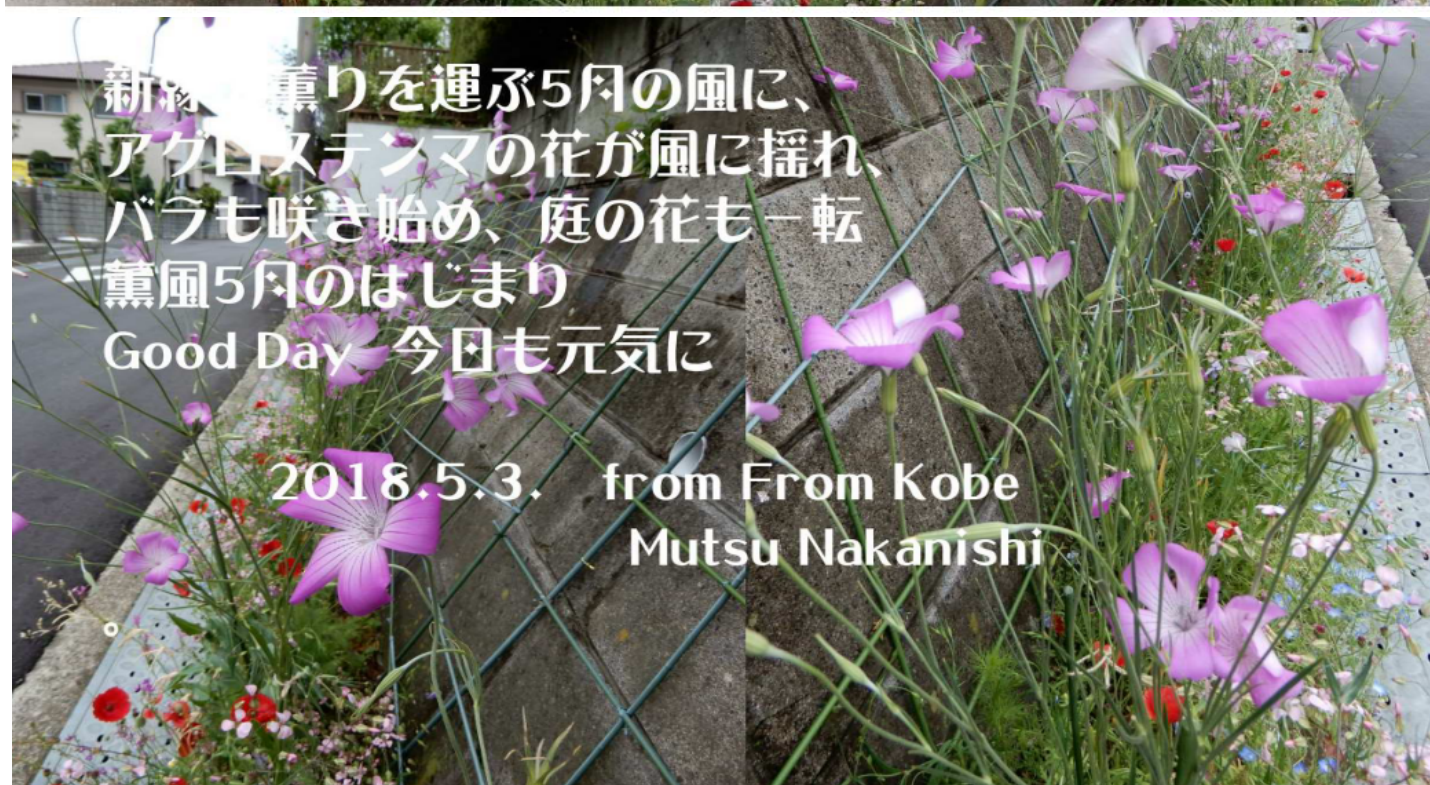
2018.4.27. 東播磨吉川の黒滝



2018.4.27. 東播磨吉川の黒滝



2018.4.27. 東播磨吉川の黒滝



続いて次のページに 石楠花2018の掲載スライドPhotoを再度集めています

新緑の六甲森林植物園 2018.4.27

シャクナゲ2018 森林植物園石楠花谷

猛スピードで駆け抜く2018年の春
ちょっと盛りが過ぎたかと著と心配しながら、森林植物園 石楠花谷へ
アズマシャクナゲやツクシシャクナゲは少し盛りを過ぎていましたが、
谷の上部のホノバシクナゲはちょうど盛り
今年も新緑の中に咲く日本シャクナゲに出会えました。
また、新緑の中に咲くハンカチの木やドウダンツツジにも出会えました



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷入口で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷入口で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



石楠花谷に入っすぐ、石楠花のトンネルの土のハンカチの木
今年も枝一杯に花をつけた姿が見られました。2018. 4. 27. 六甲森林植物園



花を一杯つけたハンカチの木 2018. 4. 27. 六甲森林植物園



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で





2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



清純な色合いが魅力の日本シャクナゲ
今年も新緑の谷を埋め尽くす美しい姿に出会えました
今年には特にホソバシャクナゲが満開でラッキーでした
でも、季節感をいっくら味わう水見もない今年の春の
ピードにはびっくり。
地球環境の変化がわが身にのしひしと感じてる2018年春です

2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠谷入口



新しい発見!!

ドウダンツツジは「灯台園」と書くんだ
何年も春の白い花・秋の紅葉と
何年も出逢ってきて 初めて知りました
「ドウダン」は、枝が分かれている様子が
昼夜間の明かりに用いた灯台（結び灯台）の脚部と
似通っており、その「ドウダン」から転じたものだ
という

新緑の淡い緑の中、小さな白い花が重なり合って、
新緑に素晴らしい濃淡をつける。
新緑の中でも一番気に入っているドウダンツツジ
今年も健在でした

ドウダンツツジ
灯台園種

開花しています。

ドウダンツツジ

Enkianthus pendulus ヨシノキ科ノキ属



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



新緑の森・森林植物園 散策

森林植物園内南のシヤトルが森では西洋シャクナゲ花を見つけ
すぐ横のドウダンツツジも一杯に白い花をつけているとの案内
森林植物園・新緑に包まれた森の午後 散策を楽しむ。



2018. 4. 27. 六甲森林植物園



ドウダンツツジ 2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠谷入口





2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



新緑の六甲森林植物園 2018. 4. 27.

シャクナゲ2018 森林植物園石楠花谷

猛スピードで駆けてゆく2018年の春
 ちょっと盛りが過ぎたかと著と心配しながら、森林植物園 石楠花谷へ
 アズマシャクナゲやツクシシャクナゲは少し盛りを過ぎていましたが、
 谷の上部のホノノバシャクナゲはちょうど盛り
 今年も新緑の中に咲く日本シャクナゲの美しい姿に出会えました。
 また、新緑の中に咲くハンカチの木やドウダンツツシにも出会えました



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で

神戸 2018 年 過ぎ行く春の Photo Album 2018.5.3.



2018 年春 まだ 4 月に入ったばかりというのに、満開の桜が散ると野山も街も一斉に芽吹いて新緑に衣替え。今年の春は三春どころか四春・五春。あれよ あれよと猛スピードで春が駆け抜けてゆく。地球環境の激的な変化が我が身に迫る。すごいことがおこっているなぁと感じる 2018 年春 神戸の我々にとっては初めての経験。でも毎年春を待ちかねる北国や信州ではこんな具合なのかと。



年々早くなる春に戸惑いを感じ、何となくめいっぱい喜べないような気分もちょっぴり。でも 待ちかねた春 今年も神戸の春 新緑をたのしまねばと毎日 good Day Now と風来坊 猛スピードで駆け抜ける 2018 年春の絶景をスライド動画と Photo アルバムにしました。

神戸 2018 年 過ぎ行く春の Photo Album 2018.4.27. File 収蔵サイト

- ◆ 【スライド 動画】 <http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1805sinryoku.mp4>
- ◆ 【Photo アルバム】 <http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1805sinryoku.photo.pdf>
- 《参考》 シャクナゲ 2018 森林植物園 石楠花谷 2018.4.27. File 収蔵サイト
- ◆ 【スライド 動画】 <http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1805syakunage2018.mp4>
- ◆ 【Photo アルバム】 <http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1805syakunagephoto.pdf>

毎日のwalk のなかで 毎年の春景色と共に気が付かなかった絶景や昨年は見られなかった景色にも幾つか出会うことができました。年々季節の感覚が狂って、その振幅が大きくなっている春の訪れ。
 歳と共に年齢からくね感覚も加わって、今年は特に素直に春爛漫を喜んでおられぬ思いをふっと感じています。
 でも 毎年この時期に作る身勝手な神戸の春のアルバムですが、私にはうれしいアルバム。
 毎日 Good Day Now 今を元気にと。 2018.5.3. from From Kobe Mutsu Nakanishi



1. 4.10 久しぶりに神戸の街にでて、諏訪山レインボーブリッジに登る
若者のデートスポットですが、久しぶりに神戸の街が眼下に広がる
2. 4.14. 穏やかな春の午後 鉄拐山より大阪湾が一望 穏やかな須磨浦の海に潮目がくっきり見える
須磨の春 春の海ひねもす のたりのたりかな
3. 4.20. 新緑に包まれた姫路城 新緑の中を舞う白鷺のごとし 緑のトンネルの中を歩く
鉄鋼マンとしての出発をした若者たちの一群が写真を撮っているのだから。
わたしにも昔こんな時代があったと懐かしく 若者たちにエールを送る
4. 4.23 自覚の角先も真っ赤なポピーが咲いて 華やかに いつもの春の角先に
5. 4.27. シャクナゲ 2018 盛りが過ぎたかと心配しながら、森林植物園 石楠花谷へ
今年も新緑の谷を埋め尽くす日本シャクナゲ 新緑の中に咲くハンカチの木や
ドウダンツツジにも出会えました。
谷の上部のホソバシャクナゲはいつもはこれからという時期ですが、ちょうど盛り
ドウダンツツジは「灯台躑躅」と書く。これは山口の「特牛・コッティイ」級の難読や
6. 4.27. 東播磨古川の黒滝三木市吉川町の美裏川幅一杯 幅 30m、落差 4m の滝)
東播磨の田園が広がる「山田の里吉川」の街の中に落差は小さいが川幅一杯に流れ落ちる
こんな美しい滝「黒滝」がある。水辺が窓しくなってきた矢先、初めてたずねました
7. 5. 1. さわやかな五月の風に横尾道 のじぎくの丘の大空を泳ぐこいのぼり
8. 5. 3. 5月の連休はいつものごとく家で休養
待ちかねたアグロステンマの花が咲いて 5月の角先・庭に掉尾を飾るバラの香りが漂う
薫風5月 Good Day 今日元気に 孫たちも帰ってのんびりと







春の須磨浦をゆつたり、潮が流れる。 2018.4.14、鉄樹山より



2018春
新緑に包まれた姫路城 2018.4.20.



南側正面から眺める国宝姫路城。 2018.4.20.
青空をバックにそびえ立つ姿は本当に美しい



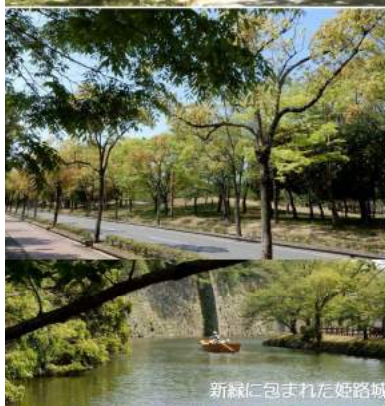
久しぶりに姫路城の北側、県立歴史博物館へ資料をもらいに出かけました。
南側は観光客でいっぱいですが、北側は新緑に包まれた落ち着いた空間
お城を見上げながら、お散歩をぐるりと一周、散策を楽しんで帰ってきました
2018.4.20.



新緑に包まれた姫路城の北側 散策路 2018.4.20.



新緑に包まれた姫路城 北側の散策路より 2018.4.20.



新緑に包まれた姫路城の北側 散策路 2018.4.20.



新緑に包まれた姫路城の北側 散策路 2018.4.20.



お城を巡る船が運行されていました
お城の大修理が完成して、姫路城の周りも大変貌
国宝姫路城と共に、姫路の街が大変貌
街の発展には、目を奪る 2018.4.20.



国宝 姫路城 2018.4.20. 南側正面より





2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



石楠花谷に入っすぐ、石楠花の花のトンネルの上、ハンカチの木が花をつけていました。2018. 4. 27. 六甲森林植物園



花を一杯つけたハンカチの木、2018. 4. 27. 六甲森林植物園



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



ホソバシヤクナゲは、例年、まだ蕾が多い4月末、今年は満開に近い、おかげさまで満開が達められた効果でしょうか、今年ホソバシヤクナゲの花が谷の上部一部を埋め尽くしていました。

2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018. 4. 27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27. 六甲森林植物園 石楠花谷で



2018.4.27. 六甲森林植物園 石楠花谷で

新緑の森 森林植物園 散策

森林植物園内南のシアトルの森では西洋シヤクナグが花をつけ、すぐ横のドウダンツツジも枝一杯に白い花をつけているとの声です。森林植物園 新緑に包まれた森の午後、散策を楽しむ。



2018.4.27. 六甲森林植物園

新しい発見!!

ドウダンツツジは「灯台蘭」と書くんだ
何年も春の白い花・秋の紅葉と
何年も出会ってきても初めて知りました
トドメツツジは「鈴がけ」の鈴がけ
吉成園の樹木に詳しい方から「鈴がけ」の鈴がけ
鈴がけツツジ、その「トドメツツジ」のお話を聞いた

新緑の深い森の中、小さな白い花が重なり合って
新緑に素晴らしい濃淡をつける。
新緑の中でも一番気に入っているドウダンツツジ
今年も盛んでした



ドウダンツツジ 2018.4.27. 六甲森林植物園 石楠谷入口



ドウダンツツジ 2018.4.27. 六甲森林植物園 石楠谷入口



2018.4.27. 六甲森林植物園



西洋シヤクナグ 2018.4.27. 六甲森林植物園 シアトルの森で



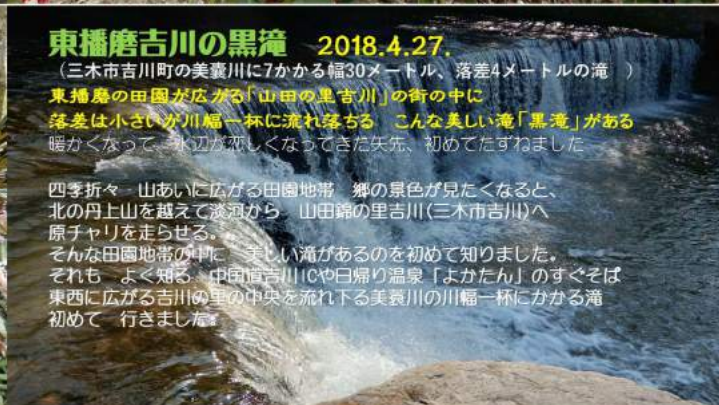
2018.4.27. 六甲森林植物園 石楠花谷で

東播磨古川の黒滝 2018.4.27.

(三木市吉川町的美養川に7かかる幅30メートル、落差4メートルの滝)

東播磨の田園が広がる「山田の里吉川」の街の中に
落差は小さいが川幅一杯に流れ落ちる こんな美しい滝「黒滝」がある
暖かくなって、水辺が涼しくなってきた矢先、初めてたずねました

四季折々、山あい広がる田園地帯 郷の景色が見たくなると、
北の丹上山を越えて淡河から、山田の里吉川(三木市吉川)へ
原チャリを走らせる。
そんな田園地帯の中に、美しい滝があるのを初めて知りました。
それも、よく知る、中国吉川ICや日帰り温泉「よかたん」のすぐそば
東西に広がる吉川の里の中央を流れ下る美養川の川幅一杯にかかる滝
初めて、行きました





2018. 4. 27. 東播磨吉川の黒滝



2018.4.27. 東播磨吉川の黒滝



中国自動車道吉川ICのすぐ東
県道17号沿い美養川にかかる黒滝



黒滝の美養川南岸段丘より眺める吉川の里 吉川IC方面 2018. 4. 27.



美養川南岸の丘より眺める黒滝 2018. 4. 27.



2018. 4. 27. 東播磨吉川の黒滝



2018. 4. 27. 東播磨吉川の黒滝



2018. 4. 27. 東播磨吉川の黒滝



2018. 4. 27. 東播磨吉川の黒滝



美蓼川南岸の丘より眺める黒滝 2018. 4. 27.



美蓼川南岸の丘より眺める北側吉川の里 2018. 4. 27.



帰り道 吉川から南へ山越えした淡河町僧尾の里で
美しいレンゲ畑を見つけました
今年一番のレンゲ畑です 2018. 4. 27.



淡河町僧尾の里のレンゲ畑 2018. 4. 27.



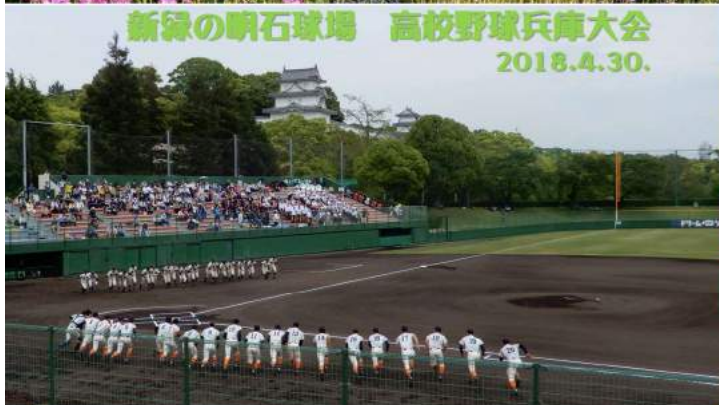
淡河町僧尾の里のレンゲ畑 2018. 4. 27.



東播磨吉川の黒滝

趣味で歩いて訪ねた吉川の秘蔵地帯の中にある「黒滝」
(三木市吉川町の黒滝山と1か所と黒滝のメーデル、落差4メーデルの滝)

田舎が広がる「山田町の黒吉川」の街中の田舎に埋もれてひっそりと
滝ははいる川に、林に流れ落ちる美しい滝「黒滝」がある。
吉川のサイアスというところですが、それはとてつもない。
でも、田舎地帯を小滝一帯に広がる滝、堰堤など見聞がたがいますが、
山の奥に隠れてしまいましたが、近づける滝、おかげでいろんな写真が撮れました。
今回はよがたの滝には入らなかったが、四季折々訪ねる神戸の北の田舎
また、ひとつポイントが通るまで、
黒滝のレンゲ畑もまた、春の嬉しい出会いでした。
畑にまで来たのは偶然でしたが、お回は出会えずでした。
車前には黒滝街道小滝一帯と三木市黒滝町の石柳花谷を訪ね、
午後、黒滝から山田町まで吉川の黒滝戸田園を巡る原チャリwalk。
2018年度の黒滝を一日満喫できました。
2018. 4. 27. の、黒滝山麓集合の撮りながらの散歩です。

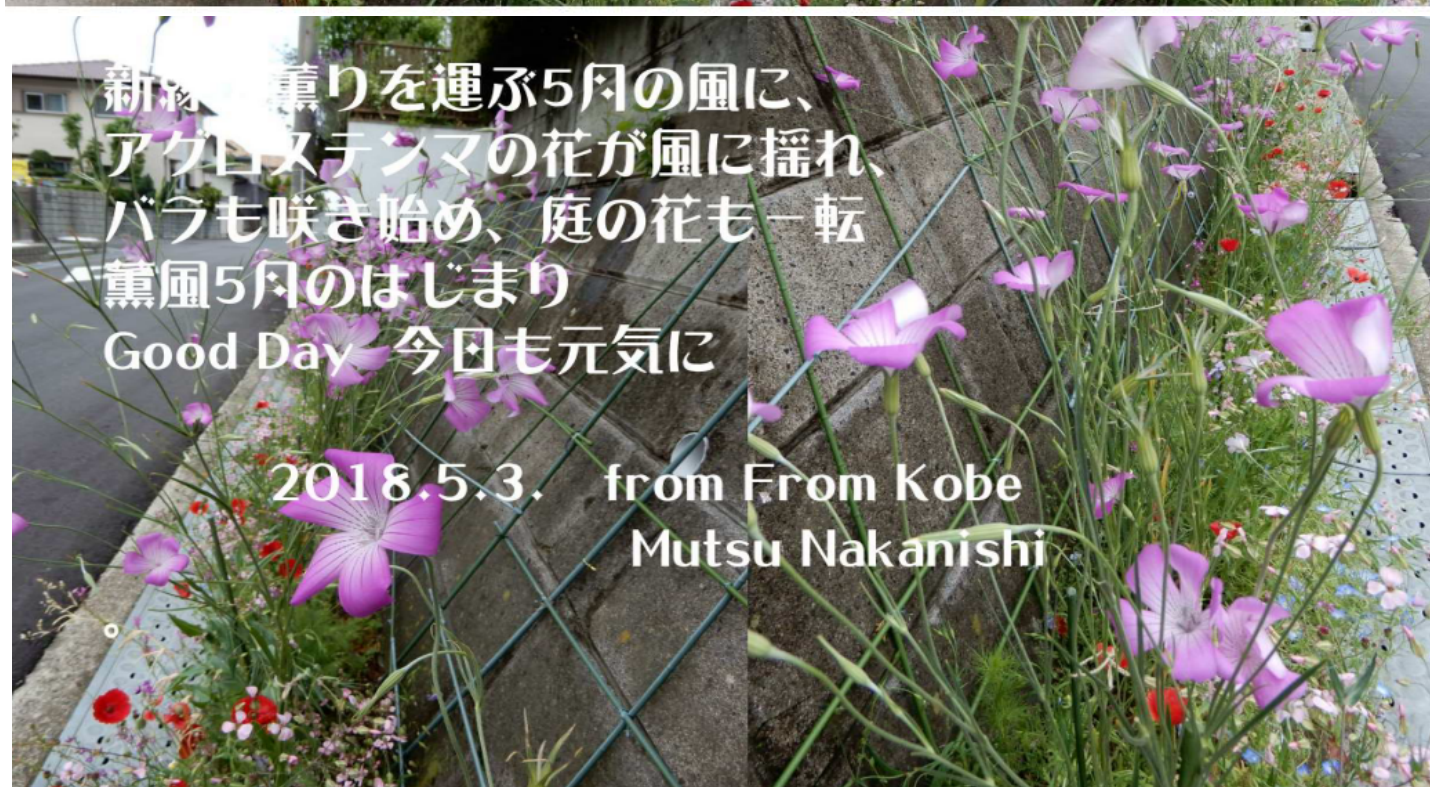


新緑の明石球場 高校野球兵庫大会
2018.4.30.



さわやかな五月の風に
大空を泳ぐこいの祭り
2018.5.1.

2018. 5. 1. 横尾道 野路菊の丘で



何万年も前の空気の泡を一杯閉じ込めて真っ白な南極氷 2018.5.12.

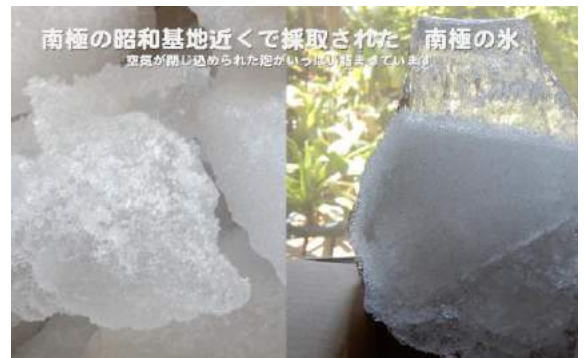
1年4ヶ月の南極での任務を終えて、この3月末に帰国した第58次南極観測隊
副隊長兼越冬隊長の岡田雅樹博士から南極の冰山から切り出した南極の氷が届きました



1年4ヶ月にわたり、第58次南極観測隊兼越冬隊長として活動し、この3月末に帰国された岡田雅樹博士。
越冬隊が南極冰山から切り出して持ち帰られた南極の真っ白な氷塊を南極のシール付きの箱に一杯詰め込んで、
送っていただきました。我が家にとっては何よりの南極土産。
家内は舞い上がって、孫たちや知人に電話。
孫たちも目を輝かせてやってきました。

もう 随分昔になりますが、

「南極氷で割った洋酒 氷が解けるときにプチプチかすかな音が聞こえる」とおすそ分けにあずかったことがある。
音が聞こえたかなあ…… 音も味も今は記憶なし。



何万年前の南極のタイムカプセル 南極冰山の氷

氷に封じ込められた空気そして氷そのものも 本当に清潔で、何も混じっていないのだそうです。

南極大陸の清潔さはいまも。南極では非常に寒いのに 空気が非常にきれいなため、吐く息が白くならないのだそうです。

地球上で一番清潔な南極をよごさぬよう南極観測隊も十分注意して観測が続けられています。

また、勝手に南極にあるものを持ち帰ることはできず、南極の氷も許可を受けて南極観測隊が持ち帰ったものです。



第 58 次南極地域観測隊

「南極の氷」について

南極の氷は、毎年南極観測隊員が昭和基地の周辺に漂流する氷山から切り出して隊員関係者へのお土産として持ち帰るものです。南緯 55 度以南においては、研究資料等特別に許可されたもの以外は、通常持ち帰ることは許されておりませんが、この氷山氷は持ち帰りが許可されているものの一つで、毎次観測隊では越冬隊員一人あたり小段ボール 4 箱分南極氷を持ち帰っております。

南極氷は、氷山から切り出して持ち帰ったものですが、その起源は南極氷床（南極大陸上に存在する氷）から海洋に流出したものであることがわかっています。南極氷床は、数万年の時間をかけて南極大陸上に降った雪が降り積もり圧縮されて形成されます。したがって、氷の中に過去の大気が気泡となって閉じ込められた状態で保存されております。そのため、南極氷は一般的には透明ではなく白い氷となります。気泡は時間をかけて圧縮されており、水に浮かべると氷が溶ける際に圧縮された空気がはじける音を聞くことができます。

極地研究所を中心とする研究グループでは、昭和基地からおよそ 1000km 内陸に位置する南極大陸上にドームふじ基地を設置し、深層アイスコア掘削計画を進めており、アイスコア中に閉じ込められた過去 100 万年におよぶ地球大気の組成、気温変化等を調べる研究チームが活動しております。

小中学校等で行われる授業あるいは講演会等では、この南極氷を通して過去の地球環境の変遷を調べることができるということを気泡のはじける音を聞くことで実感し、南極観測による研究成果への期待を膨らませてもらうことができます。また、南極の大気は、非常に清浄な大気であることも知られております。通常日本では真冬の寒冷な時期には人が吐く息が白くなる原因の氷結核が大量に存在しますが、昭和基地周辺においてはマイナス 20 度の屋外でも人の吐く息が白くならないほど大気が清浄であることは隊員は経験しております。

そのため、南極氷も極めて純粋に近い清浄な氷であることが成分分析によっても判明していますが、国内においては食品に準じるような扱いはしておりませんので、保証のかぎりではありません。学校等においては飲むようなことは推奨しておりませんが、お土産氷については、以上のような隊員からの説明を付して取り扱いはお任せしております。

1 年 4 か月に及ぶ隊員の活動の一端を思い起していただくとともに、国内において関係する皆様のご支援に感謝して南極氷をお楽しみいただければと思います。

どうもありがとうございました。

第 58 次南極地域観測隊
副隊長兼越冬隊長
岡田雅樹



国立極地研究所
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構



第58次南極地域観測隊

「南極の水」について

南極の水は、毎年南極観測隊員が昭和基地の周辺に漂流する氷山から切り出して隊員関係者へのお土産として持ち帰るものです。南緯55度以南においては、研究資料等特別に許可されたもの以外は、通常持ち帰ることは許されておきませんが、この氷山氷は持ち帰りが許可されているものの一つで、毎次観測隊では越冬隊員一人あたり小段ボール4箱分南極氷を持ち帰っております。

南極氷は、氷山から切り出して持ち帰ったものですが、その起源は南極氷床（南極大陸上に存在する氷）から海洋に流出したものであることがわかっています。南極氷床は、数万年の時間をかけて南極大陸上に降った雪が降り積もり圧縮されて形成されます。したがって、氷の中に過去の大気が気泡となって閉じ込められた状態で保存されております。そのため、南極氷は一般的には透明ではなく白い氷となります。気泡は時間をかけて圧縮されており、氷に浮かべると氷が溶ける際に圧縮された空気がはじける音を聞くことができます。

極地研究所を中心とする研究グループでは、昭和基地からおおよそ1000km内陸に位置する南極大陸上にドームふじ基地を設置し、深層アイスコア掘削計画を進めており、アイスコア中に閉じ込められた過去100万年におよぶ地球大気の組成、気温変化等を調べる研究チームが活動しております。



小中学校等で行われる授業あるいは講演会等では、この南極氷を通して過去の地球環境の変遷を調べることができるということを知ってもらえることができます。また、南極の大気は、非常に清浄な大気であることも知られております。通常日本では真冬の寒冷な時期には人が吐く息が白くなる原因の氷結核が大量に存在しますが、昭和基地周辺においてはマイナス20度の屋外でも人の吐く息が白くならないほど大気が清浄であることは隊員は経験しております。

そのため、南極氷も極めて純粋に近い清浄な水であることが成分分析によっても判明していますが、国内においては食品に準じよう扱いにはしておりませんので、保証のかぎりではありません。学校等においては飲むようなことは推奨しておりませんが、お土産氷については、以上のような隊員からの説明を付して取り扱いはお任せしております。

1年4か月に及ぶ隊員の活動の一端を思い起していただくとともに、国内において関係する皆様のご支援に感謝して南極氷をお楽しみいただければと思います。

どうもありがとうございました。

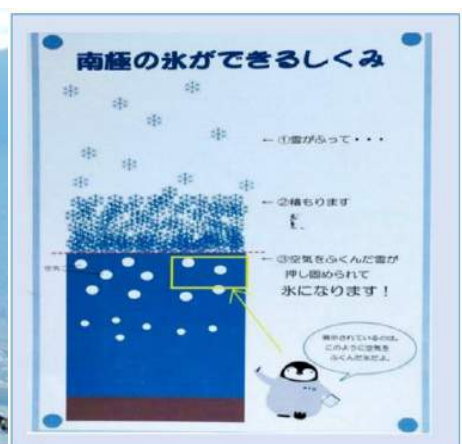
第58次南極地域観測隊

副隊長兼越冬隊長

岡田雅樹



南極昭和基地近くの氷山からこんな風に割って採取されました



第58次南極地域観測隊のホームページ & 極地研究所のホームページ (ほかあり)
<https://www.nipr.ac.jp/> & <https://www.nipr.ac.jp/science/museum/ed/01/01/01/>

南極の氷山

南極大陸に降り積もった雪が当時の空気を封じ込みながら何万年も積み重なり、圧縮されてできたものである。氷の中全体に何万年も前の空気を一杯閉じ込めているため、真っ白に見えるのだと聞く。

この氷塊のかげらを陽にかざすと、透明な氷に一杯泡が詰まっているのが見え、それがキラキラ輝いて白く見えている。南極氷と知ってみるからからかかもしれませんが、本当に美しい。

コップに小片を入れ、水を注ぐと「シュアシュア」と小さな音をたてながら溶けてゆく。そして、水に浮かんだ氷が溶け、「フチ フチ」とかすかな音をたてながら、空気の泡を表面に登らせてゆく。この空気の泡は何万年も前の南極の大気だという。



よく見るとこんなに良く透き通っていて、何万年前の泡がいっぱい詰まっています
コップにかげらを入れて、水で溶かすと、「シュワッ」と小さな音かして、
耳を澄ますと「チッチッ」と音をさせながら次から次へ泡が浮かんできます

岡田博士が送ってくれた解説分によれば、何万年も前の太古の雪と氷は何の混じりけもなし。清浄そのもの。また、今の南極大陸もまた清浄で、冷たい大気に吐きだす息も白くはならぬという。初めて知る話にそうなんやと。また、コップの中に入れた南極氷の小片が水の中で溶けて、封じ込めていた泡が飛び出す音をデジカメ動画で観察。正確に音がとらえられたかどうか・・・疑問も残るかすかな音。
下記サイトに入れてありますので、一度アクセスしてみてください。

■ 水に浮かべた南極氷の泡がはじける音

<http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/2018mutsu/1806nankyokukoori.mp4>

思いがけずに南極氷と共にやってきた白い南極の世界 貴重な南極氷山水を送ってくれた岡田雅樹博士に感謝。次々とイメージが膨らんで、引き込まれてゆく。うれしいひと時でした。



よく見るとこんなに良く透き通っていて、何万年前の泡がいっぱい詰まっています
コップにかげらを入れて、水で溶かすと、「シュワッ」と小さな音かして、
耳を澄ますと「チッチッ」と音をさせながら次から次へ泡が浮かんできます

南極の昭和基地近くの湖「アンターセー湖」

約35億年前始地球 大気の酸素をつくり、現世生物のルーツであるシアノバクテリアの生態系をそっくりそのまま封じ込め、太古の世界そのままに今見られることにびっくりした先月、
今度は、「南極の氷山水の中に大量の泡として封じ込められた数万年前の大気」
太古の地球のIron Roadの世界が垣間見れた気がしています。まだまだ 南極には神秘の世界があるのだらうと
この南極氷山水に孫たちが夢をふくらませられるように インターネットにある極地研究所 南極観測や南極・北極館のページから写真を取り出し、岡田雅樹博士が送ってくれた解説「南極氷うんちく」と共に整理しました。
南極については忘れかけていましたが、南極について、もっと知らねばと。

2018.5.12 南極の氷山水をコップの水に浮かべながら

Mutsu Nakanishi



南極昭和基地近くの冰山からこんな風に割って採取されました



※ 南極観測ホームページ & 極地研 南極・北極館のホームページ (ほかより)
<http://www.nir.ac.jp/> & <http://www.nir.ac.jp/science/museum/seibutsu.html>



南極昭和基地に接岸した砕氷船「しらせ」



観測隊を運んで南極の氷海をゆく砕氷船「しらせ」



ペンギンやあざらしも近くにいる南極昭和基地



国立極地研究所提供



南極の海岸にはペンギンもアザラシもいて、時折 観測隊のいる昭和基地周辺にもやってくるそうです

国立極地研究所

【Photo Album & スライド動画】

2018.6月 梅雨の晴れ間 久しぶりに 東六甲を歩く【1】

六甲高山植物園より 六甲最高峰を経て 緑に埋まる住吉谷を下る 2018.6.14.

2018 Walk
07

1. ニッコウキスゲの咲く六甲高山植物園
2. 六甲山上の縦走路を東へ山上散策 六甲山最高峰へ
3. 裏六甲有馬と表六甲を結ぶ最もポピュラーな六甲越の古道「住吉道」から住吉谷を下る



私の一番好きな六甲 武庫川から眺める東六甲の登
小さな時から、私の慣れ親しんだ景色でもある

尼崎と西宮の境を流れ下る武庫川土手から眺める東六甲 右端にこんもり甲山が見える

須磨海岸から宝塚に至る全 55～56 キロに約 50 の山が連なる六甲連山。最高峰は六甲山（931.25m）須磨からは山並みが重なり、六甲山頂など東六甲の山々はよく見えない。でも、子供の時から尼崎に住んでいた私にとって、朝夕眺める東六甲の山並みはポピュラーな山並み。

六甲山上の峰に見える鉄塔群・ユニークな姿の甲山／おたふく山・表六甲のいくつかの谷筋。通った学校の校歌にも読みここまれ、須磨に移ってからも、電車に乗ると車窓から山並みを探す。健康 walk にいつも足をむける須磨の六甲縦走路でも やっぱり遠く東六甲の山並みや阪神間の街の景色を探す。 本当によくなれ親しんだ山々である。

晴れ渡った梅雨の合間 西六甲鉄拐山から東に延
びる六甲連山とその一番後ろ遠くに隠れて、山裾
だけが見える東六甲の山々を遠望する。

「本当に長いこと東六甲の六甲最高峰・住吉谷山裾だけが見えているお多福山・甲山にも登っていない。今どないなっているのだから……」と好奇の虫が騒ぐ。

かつて よくハイキングに出かけた場所ではあるが、住宅地として大きく変貌した阪神間六甲の山腹。色々話は聞か・・・・と興味深々。

この梅雨の晴れ間 電車にえば1時間もかからず麓に行けるので、毎日の健康 walk に東六甲へも足を延ばそう。



もう10数年足を踏み入っていない東六甲。

一番行きたいのは住吉川の谷筋の古道とその上に聳える六甲山最高峰とおたふく山。そこから眺める阪神間の市街地 大阪湾

沿岸の大パノラマ。いつも見えない尼崎周辺 甲子園はみえるだろうか？

そして最後は遠足でよく行った奥池・甲山とすぐにコースが頭に浮かぶ。

開発が進み、登山道も整備されているが、気になるのはアプローチの長いきつい山道が続く住吉谷。歳を考えるとアプローチの長い急な住吉川を登るのはちょっとしんどい。東六甲の道も随分変わっているだろう。まずは様子見と。

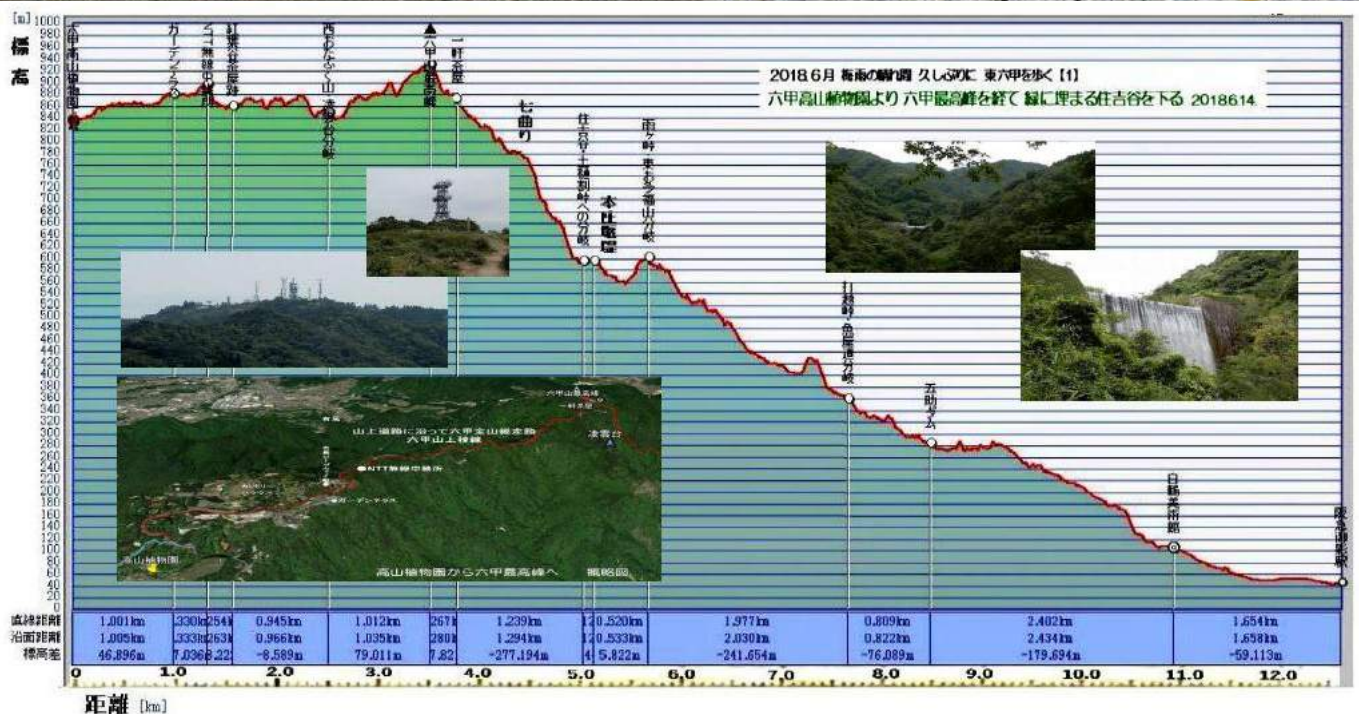
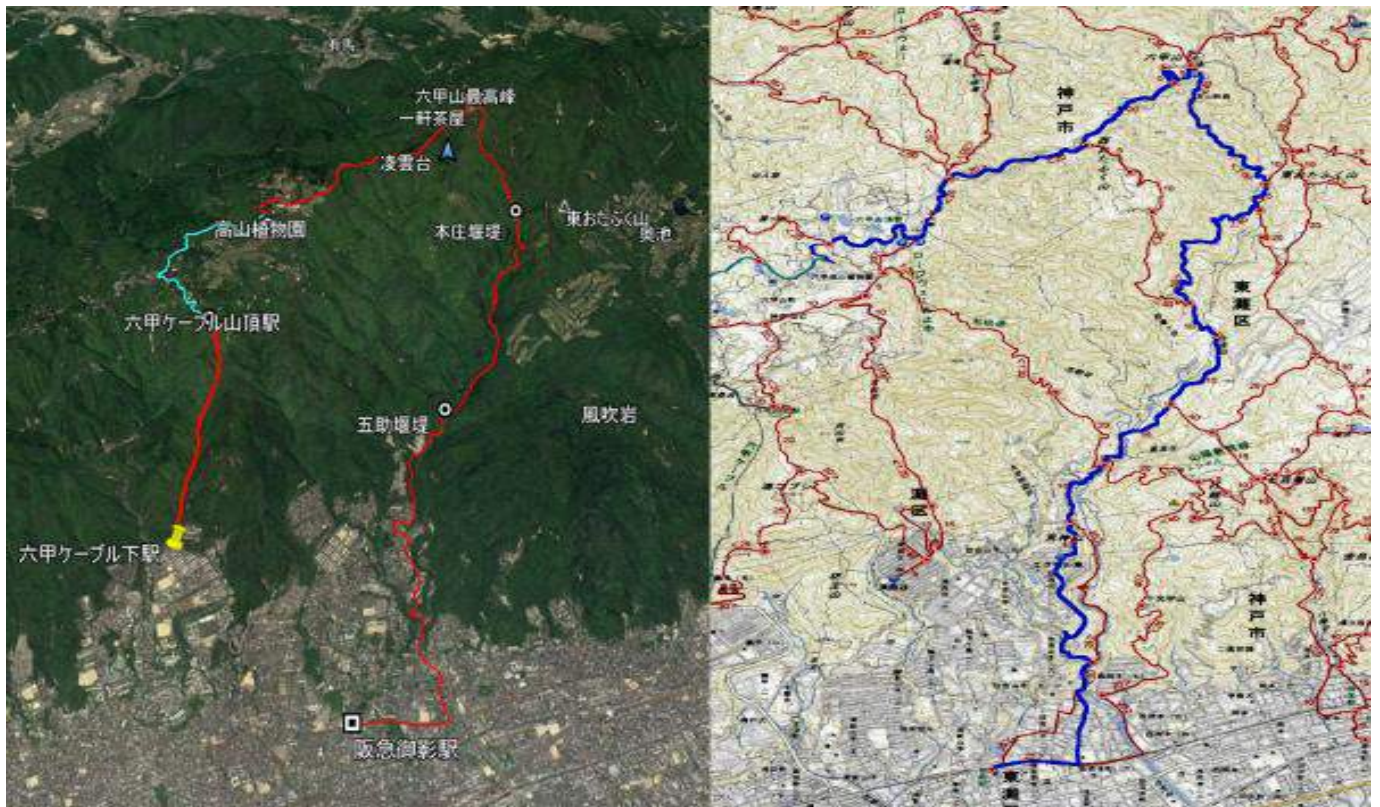
6月14日梅雨晴れの朝 ケーブルで六甲山上へ・

毎年この時期行く高山植物園の花を見て、山上の縦走路を東へ 山上散策 六甲最高峰を経てへ住吉谷 六甲越一軒茶屋から住吉谷の古道 魚屋道・住吉道を下って 東神戸の御影へ下ることに。一番のポピュラーなコース。

梅雨の晴れ間 6月14日朝 期待を膨らませつつ、六甲ケーブルで六甲山上へ

六甲高山植物園より六甲最高峰を経て 久しぶりに住吉谷を下る 2018. 6. 14.

1. ニッコウキスゲの咲く 六甲高山植物園
2. 六甲山上を東へ歩いて 六甲山最高峰へ
3. 裏六甲有馬と表六甲を結ぶ六甲越の古道「住吉道」から住吉谷を下る



1. 初夏の高山植物やニッコウキスゲの咲く六甲高山植物園



6月の月上旬青いケシやクリンソウなどに合わせ、
毎年六甲高山植物園に咲く高山植物を見に出かけるのですが、
今年は出遅れ。ただでさえ温暖化が進む中 ニッコウキスゲ
が今満開と聞きましたか??
いつも楽しみにしている駒草・エーデルワイス・オオヤマレ
ンゲなどはまだ咲いているだろうか?
あまり期待はせずに……
お目当てはニッコウキスゲ。
でも駒草やオオヤマレンゲにもぜひ出会いたいと期待一杯。
六甲高山植物園東門より入る。



左 ニッコウキスゲが咲き始めた湿地 右初夏の高山植物が咲く岩山

2018.6.14. 六甲高山植物園で

六甲高山植物園 2018年6月 花のアルバム



東門への丘の斜面の草むらにはイブキトラノオやオオヤマブキシロウマなど梅雨時を
彩る山野草が一杯。今年も六甲に咲く初夏の数々の高山植物 ニッコウキスゲのほか
コマクサやエーデルワイスなど高山植物や梅雨時の山野草に出会えました。
以外にも まだ水辺にクリンソウも残っていて、うれしいオウヤマレンゲにも出会え
て、満足感一杯で東門へ向かう。

それにしても すごい速さで過ぎゆく季節 地球環境の変化をここでも感じました。

六甲高山植物園 東門へ向かう丘で 2018.6.14.



2.. 六甲山上の六甲全山縦走路を東へ六甲山最高峰へ



12:30 六甲高山植物園東門前から六甲山最高峰へ向かって東へ山上 walk。

最高峰は六甲山上の一番東端に聳えるため、山上へ上がってもいつもパスして久しぶり。でも今回は須磨からみえぬ東六甲・大阪湾の大展望。その期待で一杯。山上散策も久しぶり。紫陽花は咲き始めのようですが、いつも見上げる六甲稜線の鉄群にも今日はパスせずゆっくりと。

新緑に包まれた山上散策に期待がふくらむ。

六甲の全山縦走路は山上でドライブウェイと何度か 交差しながら、ほぼ並行して東六甲へ伸びる。六甲高山植物園前のドライブウェイの坂道をカントリーハウスを通過して、ガーデンテラス前まで歩いて、六甲全山縦走路に入る。

今日は平日なので車が少なく、この山上道路をそのまま六甲最高峰下の一軒茶屋前まで行けるが、ガーデンテラス前から静かな緑に包まれた登山道に入る





ガーデンテラスの横から縦走路に入ると稜線の南側 山肌に沿って東へ進む。パッと前方に視界が開け、阪神間の海岸部の大遠望。また前方にNTT 無線中継所の電波塔がみえる。

下からいつもみえるガーデンテラス・有馬ケーブルの鉄塔群と一緒に見えている電波塔だ。





北六甲と呼ばれるNTT 無線中継所周辺縦走路は大阪平野を見渡す絶好の展望所。神戸の港に続く阪神港がくっきりと。中継所を北へ回り込んで稜線へ。山上へ出たところが広がっていて標識があり、山上道路を渡り、ここが、北へ有馬へ紅葉谷を下る地図に極楽茶屋跡と記された有馬入口であるとわかった。

また、眺めてきた谷が住吉谷・大月地獄谷と並び堰堤が多数並ぶ急峻な谷筋。滝と堰堤が続く表六甲治水・治山の要 水晶谷・西滝ヶ谷の谷筋で、西おたふく山を間に「住吉谷」の一つ手前の谷と知れた。



ここから全山縦走路は稜線の北側へ移り、また緑の林の中を次は凌雲台・西おたふく山への別れへ。雨上がりの晴れ間 本当に清々しく心地よい。道は北側からまた、南へ巻いて、また山上道路をクロスして、南側凌雲台への道へ。南に西お多福山頂上 凌雲台にある電波塔が見えている。六甲山上稜線の南側はまさに阪神間の電波塔の銀座である。





まもなく南の凌雲台へ向かう舗装道路とクロスして東へ向かうと六甲最高峰も近い。

でも中々六甲最高峰は見えず、相変わらず緑の中を上り下りを繰り返しつつ、また、北側の林の中へ。

クロスした山上道路のわきには北区と東灘区の境の区分標識が見える。



林の中、上り下りを繰り返す中、前方の木々の間から、最高峰の頂上にある電波塔がちらっと見える。

この林を抜ければ、六甲最高峰である。





いよいよ六甲最高峰への登りにとりつく 2018.6.14 13:31



樹木の隙から稜線北側の景色を垣間見ながら、少し林の中を登ると視界が開け、最高峰の広い山頂部の南端に飛びだすT字路【1】 2018.6.14 13:35

また、山上道路とクロスして階段道を登れば、いよいよ六甲最高峰の頂上だ。

樹木の隙から稜線北側の景色を垣間見ながら、少し林の中を登ると視界が開け、ひょいと最高峰の広い山頂部の南端に飛びだす。南側の山上道路から登ってきた広い道とのT字路に。ここを左へ折れて少し進めば頂上だ。

北に頂上脇にある最高峰の目印 電波塔が見え、反対側には南東に広がる大阪湾沿岸大阪平野の大パノラマが広がっている。まずは頂上へ行って、早くこの大展望を楽しみたい。



樹木の隙から稜線北側の景色を垣間見ながら、少し林の中を登ると視界が開け、最高峰の広い山頂部の南端に飛びだすT字路【2】 2018.6.14 13:35
Dorive wayから登ってきた道を右、北側へ歩けば山頂 南には眼下に広がる大阪平野が遠望される
いつから ここへ登って来ていないのだろうか.....



六甲山最高峰頂上へ 北への最後の緩やかな登山道 2018.6.14



六甲山最高峰頂上 2018.6.14 13:38
高山植物園から約1時間の山上walk 速るものない360度の大展望

高山植物園から約1時間の山上walkで、六甲山最高峰頂上に到着。遮るもののない360度の大展望が開けている。もう数十年ぶり。下から六甲山上の電波塔を探すことはあっても、ほとんど六甲最高峰の記憶はかすかに。こんな風になっているんだ。また、山上バスもなく、山上の東端までは遠いと思っていましたが、山上から約1時間でこれる距離なんだとびっくり。しかも下界の喧騒から離れ、心地よい緑に包まれた林の中をいつも見上げる稜線の鉄塔群を巡り、そして眼下に広がる大パノラマを楽しみながらの三城散策で六甲山山頂に。

2018.6.14. 13:38 標高931m 六甲頂上到着です



山頂標識の北側から六甲最高峰の頂上部を眺める 2018.6.14.



谷を隔てた電波塔。山頂の標識の北側から、山頂の電波塔を眺める。六甲最高峰の頂上部を眺める。2018.6.14.



六甲山。山頂の標識の北側から、山頂の電波塔を眺める。六甲最高峰の頂上部を眺める。2018.6.14.



手前には標識の北側から、山頂の電波塔を眺める。六甲最高峰の頂上部を眺める。2018.6.14.



手前には標識の北側から、山頂の電波塔を眺める。六甲最高峰の頂上部を眺める。2018.6.14.



電波塔のある山頂上部に建てられた電波塔の大阪平野。2018.6.14. 山頂の北側より



六甲最高峰の山頂の電波塔から眺める大阪平野の大阪平野。2018.6.14.



左の生駒山を背に広がる大阪平野 中央緑の帯が武庫川 右には西宮・尼崎の港 手前中央に芦屋奥池の街



六甲最高峰から眺める大阪平野 2018.6.14.

生駒山

(生駒山から南へなだらかに伸びる生駒連山)
(大阪のビル群を背景に 南北に流れる淀川の流れ)

玉江橋 阪神尼崎駅

R171・新幹線 名神 山手幹線

(緑のベルト・武庫川)

R2・武庫川大橋

(緑のベルト・武庫川)

甲子園



六甲山最高峰から眺める南東側 阪神間の街中に故郷尼崎を探す

大阪の街のビル群・淀川を背に ○印が阪神尼崎・玉江橋周辺 目印白いアルカイクホテル・

総合文化センターのビルが見える。 その左が阪神尼崎周辺? 尼崎城がみえていいる気がする楽しみにしていた

大阪湾沿岸東部 尼崎の街や大阪のビル群がぼんやりながら遠望できました。また、今再建中の尼崎の城も・・・

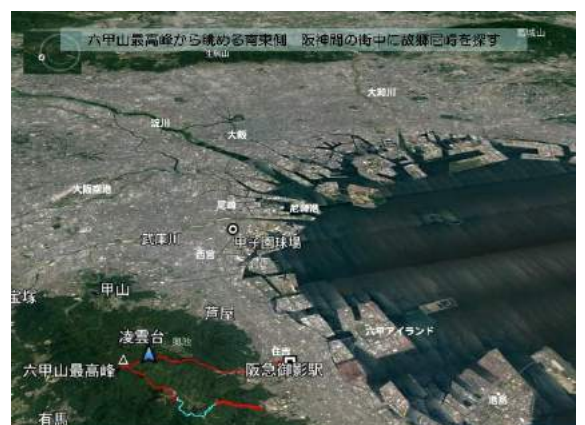
長いことゆかなかった六甲山最高峰が こんなにきれいに整備され、約1時間の山上散歩で訪れられたのにもびっくり。

また、いつも遠く遠望する六甲稜線に見える鉄塔・電波塔にしっかり出会えたのも収穫。

新鮮でうれしい六甲山上 緑のWalk になりました。

帰りは 南すぐ下のドライブウェイの一軒茶屋に出て、久しぶりに古い六甲越えの道 住吉谷を降る。

こちら、もう10年以上入ったことなし。 長い下りのウオークになるが、興味深々で最高峰を後にする。



3. 裏六甲有馬と表六甲を結ぶ最もポピュラーな六甲越の古道「住吉道」から住吉谷を下る



14:00 最高峰での展望を楽しんだ満足感一杯で、山頂をあとにする。 帰りは予定通り、すぐ下の六甲越の一軒茶屋におり、そこから裏六甲有馬と表六甲を結ぶ六甲越 住吉谷を下る古道「魚屋道・住吉道」を御影へ。
下り始めてすぐ下 六甲越 一軒茶屋。ここから北へ越えれば有馬へつながる六甲越魚屋道。南へ下れば住吉谷。
建物の南側に一軒茶屋の碑があり、この南が住吉谷へ降りてゆく古道「住吉道(魚屋道)」の下り口である。



ここから七曲りの急な坂道を一機に住吉谷の谷筋に入り、住吉川が流れ下る左岸につけられた登山道を下る。

表六甲の川は六甲から海まで短い距離の谷筋を一機に流れ下る急峻な暴れ川で、幾多の災害をひきおこしてきた。その中で長年にわたる植林と数多くの堰堤が築かれ、今も続く長年にわたる六甲の治水・治山の要なのが住吉谷である。

その中心にある本庄堰堤・五助堰堤。

植林が行われて間もない荒れた谷筋の記憶が薄っすらあるのみですが、本庄堰堤・五助ダムの名前はしっかりと。今どうなっているのか、地図と記憶を辿りつつ、興味深々で七曲りの坂道を下ってゆく。





2018.6.18. 住吉谷へくだる七曲りの急坂



2018.6.18. 住吉谷へくだる七曲りの急坂
山頂から谷越しに西のおたふく山の電波塔が見える



2018.6.18. 住吉谷へくだる七曲りの急坂
遠くに谷越しに西のおたふく山の電波塔が見える

14:20



住吉道から眺める住吉谷
右手に本庄堰堤がちらっと見えるが、この左 緑の中に本庄橋跡がある 14:32

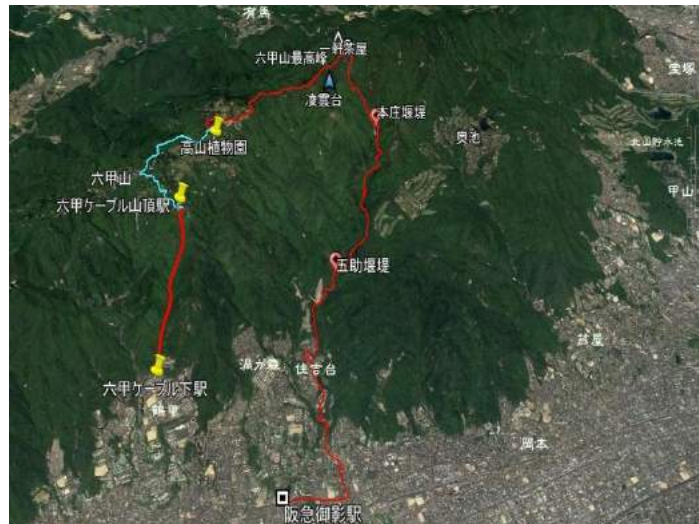
七曲りの急坂を下り終わるとすぐ南に本庄堰堤がある住吉谷の底。道標が谷側が流れる傍らに道標がある登山道の分岐点。上流側へ谷を詰めると六甲山上の石の宝殿や谷の奥で右手へ土樋割峠を越えると奥池・東お多福山へゆける。また、住吉道(魚屋道)は谷川を渡り、右へ住吉川左岸に沿って住吉谷を下る。谷を渡る下流側には本庄堰堤がちらっと見えている。



芦有道路奥池を登り口にすれば、アプローチが短く、六甲山上や東お多福山そして住吉川下降など容易になることから、この地点は六甲登山の人気ポイントだと聞く。ここから住吉川沿い左岸を下るとまもなく、本庄堰堤のすぐ横に出る。



本庄堰堤を眺めながら横を通り、東おたふく山の山腹沿いを降る 14:38
かつての奥池、住吉川、砂防工事が行われ、いくつも堰堤が作られている



激しく浸食が続いている六甲山には、階段式に数多く治山ダムをつくる必要があります。過去に何度も、激しい豪雨に耐えきれなくなった山が崩れ、土砂流となって街を襲いました。中でも、700人を越える死者・行方不明者を出した昭和13年災害、100人を越える死者・行方不明者を出した昭和42年災害は、近年で特に大きく、街に壊滅的な被害を与えました。



治山ダムの役割

一つは、谷から極端に砂礫が流れないようにくい止めて、浸食を防止することです。不安定な山の斜面が大雨で土石化し、災害を引き起こすのを防ぐと共に、森の土が流れないようにすることにより、樹木の根の成長を促します。根がネットのようにはりめぐらされ、杭のように地面に刺さっていけば、山が崩れるのを防ぐ力がさらに発揮されるようになります。

もう一つは、治山ダムの裏に貯まった土砂と土砂の隙間に、雨水を貯えることです。土の中の微生物や昆虫、植物等が生きていくための大切な水を、ゆっくり下流に流すことにより、溪流から水が溢れるのを防ぎ、乾燥した時期にも供給することができます。また、大雨が降っても、いつきに水が流出することを抑えて、洪水を調節する機能も持っています。(インターネットより)

六甲山は、激しい地震を伴いながら、断層のずれを繰り返した結果出来上がった山で、地下深くまでズブズブに割れ、激しく風化しています。このため、過去に幾度も大きな災害が引き起こされました。明治の頃、乱伐によって裸地であった六甲山は、治山事業等による緑化工事の結果、現在の緑の豊かな美しい山に蘇りました。しかし、植物が育つうえで、その土壌は未熟で極めて薄く、雨が降るとすぐ流されてしまうのが現状です。また、雨は下方に一気にしみ込んでしまう地質のため、水を蓄える力もほとんどありません。樹木の根が生え、災害に強く、土の層が水を蓄える力を十分持つようになるためには、何百年の歳月をさらに必要とし、今も緑の回復に全力で取り組まれている。





本庄堰堤を過ぎて、上ったり下ったり東お多福山の山腹を巻きながら住吉谷を下る周囲の緑のトンネルが美しい。かつては丸裸になって、荒れはてた住吉谷のイメージがあるのですが、長年にわたる治水・治山事業で、今は見事に緑が復活している。

まもなく、東お多福山麓の奥に登って、本庄第三堰堤を高巻きして回り込んだところで、雨ヶ峠からお多福山・芦屋川への分岐の道標。

かつての魚屋道はここから雨ヶ峠を越えて、風吹岩の尾根筋を下って、東灘の海岸 深江へくだる。

一方、住吉道はそのまま谷筋を下ってゆく。



緑に埋まった住吉谷中心部 2018.6.14. 14:52

雨ヶ峠分岐周辺からは 今下ってきた住吉谷の中央にどっかと座った本庄堰堤がみえ、後ろに六甲稜線の山並みが見えている

大雨の時に一機に急流を流れ下る水流・土石流を食い止めるため、上流から下流へ何段にもわたって堰堤が築かれた住吉川流域。大災害と治水・治山の闘いが今も続いている。



雨ヶ峠へ登る道がここにもある 14:56



雨ヶ峠分岐を過ぎて また住吉道は谷筋へ下って 住吉谷左岸を五助ダムへと下ってゆく。ここでも住吉谷に築かれた堰堤がみえる



雨おだく山 雨ヶ峠への分岐を過ぎ、五助ダムへと下る住吉道 2018.6.14 15:00



住吉道 左岸道 五助ダムの手前で 2018.6.14 15:04
ここから遠くは東へたぐり山を巻いて右岸の谷へと下ってゆく



雨ヶ峠への分岐を過ぎ、五助ダムへと下る住吉道 2018.6.14.
ここでも、すぐ下の谷に住吉川に作られた堰堤が見え、急流住吉川の土石流のこわさがわかる



住吉道 左岸道 五助ダムへの下りで 2018.6.14 15:10



住吉道 住吉川 左岸道 五助ダムの手前 谷底に降りて
少し並行して進むが、また山の巻道に 2018.6.14.



住吉道 左岸道 五助ダムの手前 谷底に降りて
少し並行して進むが、また山の巻道に 2018.6.14.



谷から山腹に沿って林の中に入る 15:21

谷から山腹に沿って林の中の高巻道になるが、崩落で行く手をはばまれ、さらに山腹を巻いてゆく。住吉谷ではこんな谷筋の崩落による道の整備が今も続いている。

高巻きの林の中を通り抜け、谷筋に出るととばっと明るくなって 周囲が見通せ、谷の下へ降りてゆく。地図によればまもなく打越山への分岐である。振り返ると住吉谷の奥に六甲最高峰の頂上に目印の電波塔が遠く見え、随分下ったことがよくわかる。

突然 住吉谷の治水・治山の案内板が道脇に立っているところから、急に道が石畳になり、びっくり。むかしの古道の石畳道の名残か？。

この石畳道を少し下った傍らに打越山への分岐の道標があり、打越山への分岐地点と知れる。



住吉道 五助ダムの手前 打越山への分岐近く 谷の奥に六甲最高峰の塔か？ 15:24





住吉道 住吉川左岸道 打越峠分岐 ここで 魚屋道は左へ
住吉道はそのまま谷沿いを下る 古道の雰囲気そのまま残る石畳道 1534

また、先ほどの住吉谷の治水・治山の案内板には六甲山地のくずれやすく脆い地質 そして そこを急流となって流れ下る川の治水堰の工夫について記載されていました。

アカホヤ火山灰の地層

六甲山地の形成

アカホヤ火山灰とは、約7,300年前に南九州の尾道火山（尾道カルデラ）が噴出活動したときに、日本全土をおおぐらうぐらうと火山灰が降下してきたものです。西海ヶ谷の露頭では、アカホヤ火山灰層を見ることができます。




アカホヤ火山灰（形成1000年の様子）

尾道カルデラの位置（赤丸：尾道市、緑丸：尾道市、青丸：尾道市）

「アカホヤ」からなにがわかるの？

地層の年代を決める目印となり、アカホヤ火山灰の上にある地層は、約7,300年より新しい地層、下にある地層は約7,300年より古い地層となります。

西海ヶ谷の露頭から、アカホヤ火山灰が地層断面により露出していることがわかり、約7,300年前以降の新しい時代に地層が活動した証拠となります。

「アカホヤ」はキラキラ光るってほんとう？

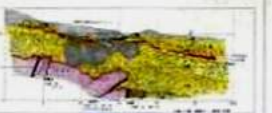
アカホヤ火山灰は、地層が乾かになったようなガラス質ですが、透明した火山灰の上部が赤いこと、ランプのガラスを「ホヤ」と呼ぶことから、合わせて、「アカホヤ」と呼ばれています。九州と八甲のアカホヤでは、色やガラス質の大きさの違いがあります。

●西海ヶ谷露頭（アカホヤ）

西海ヶ谷の露頭では、断崖運動によってアカホヤ火山灰層がさらに砕け地層が露出しています。これは、約7,300年前以降に五助断崖が活動したことを示す証拠であり、学術的にも貴重なものです。



西海ヶ谷露頭 断崖・五助断崖の露出の様子



断崖のスケッチ

※断崖一帯が地層などが露出している部分

砂防工事の工夫

経済的で環境にやさしい堰堤づくり

西海ヶ谷には、インセム工法でできた砂防堰堤があります。

インセム工法は、工事で発生した土砂とセメントを混ぜ合わせ、突き固めて出来た砂防堰堤です。インセム工法による砂防堰堤は、コンクリートで作る砂防堰堤より、環境負荷を減らすことから費用が安くなります。また、堰堤の材料のほとんどが土砂でできていることから、景観の損傷になじみます。

＜インセム工法／施工イメージ図＞

- ①混合
セメントと土砂を混ぜ合わせ、突き固めます。
- ②敷出し（しきならし）
混合したインセム材料を、盛り立て均等に敷きます。
- ③締め締め
振動ローラーで締め固めます。
- ④完成



インセム（INSEM）の意味とは・・・

インセム（INSEM: In-situ Stabilized Excavation Materials）
（漢字で）「土砂の安定化」 （読み方）「インセム」



インセム工法の堰堤

六甲の川物語

～ 八甲まで語り、伝えよう！ 住吉川物語 ～

【問い合わせ先】
国土交通省六甲砂防事務所
住所：〒658-0052 神戸市東灘区住吉東3-13-15
電話：078-851-0535
ホームページ：http://www.nokko.kky.mlit.go.jp/
〈六甲の川物語「科子」「サブノート」「断崖マップ」がダウンロードできます〉



大雨のたびに土石流が暴れ下った表六甲の谷 いくつもの堰が作られ、知さん治水の工夫が積み重ねられ、今は緑に包まれた静かな谷になっている。 子供の頃 表六甲の谷筋は 知らぬ谷筋や道に入るなとよく言われましたが、こんなに緑につつまれた谷になっているとは本当にびっくり。

でも 油断禁物。いつまた 牙をむくかもしれぬ暴れ川 今も治水・治山の戦いが続いている。



石畳道を楽しみながら、ゆっくり木々に包まれた坂を下ると林の向こうに突然小さな池の岸に出て、向こうは明かるい広い原に小川が流れ、木道が渡っているのがみえ、五助ダムに到着。

でも 広場に出ても高いダムは見えず、あちこちに樹木が茂る原。 まだもっと下らぬと五助ダムでないのだろうか?と はっと気が付く。

ダム湖の中が土砂で埋まって、湿地になっているのだと やっと気が付く。

下流へこの湿地につけられた木道を少し歩くとダム堰堤の横に出た。 確かに歩いてきた原はダム湖の中だ。



2018.6.14. 五助ダム湖 湿地の一部
林の中の牧道を下ると小さな池の横に出て、向こうは明るい
後から考えるとこの池も五助ダムのダム湖の一部かもしれない



五助ダムのダム湖の一部? 奥に湿地を渡る木道が見えている



2017.6.14. 住吉谷 五助ダム湖 広い湿地の中 小川が流れ、木道を渡ってゆく



2017.6.14. 住吉谷 五助ダム湖内の広い湿地 15:41



2017.5.14. 住吉谷 五助ダム湖



2017.5.14. 住吉谷 五助ダム堰堤



2017.6.14. 住吉谷 五助ダム 堰堤
ダム堰堤の向こうに先ほど歩いてきた湿地がみえて はっと気が付く。
もう 五助ダムは土砂でほとんど埋まっているのだと

五助ダム 名前だけしか記憶はない。
柵がされ、堰堤には降りられないが、
堰堤のすぐそばまで草原。でも堰堤
の幅いっぱい水が落ちている。
なにか 住吉谷治水・治山の格闘の
すごさが頭に浮かんだ。





帰宅して google earth で 五助ダム周辺をながめて、状況がよく分かった。また、堰堤の横をくだったところにダムサイトの広場が整備されていて、正面からしぶきをあげて流れ落ちる五助堰堤がよく見えた。

また、このダムサイトの広場は 住吉道とならぶ六甲越の古道「石切り道」や打越山への分岐など数々のバリエーションルートで東六甲へ登る登り口。こんなに良く整備されているの知りませんでした。

このちょっとおおげさ、ですが、逝ってしまった古い友人から五助ダム周辺の話を何度も聞きましたが、やっと五助ダムとの再会をはたせた。六甲学生時代からフィールドにし、土木の技術屋で山仲間でもあった友を思い出して ちょっと感傷的にもなって、しばらく五助ダムの水音を聞いていました。



2018.6.14 住吉道 五助ダム周辺 石切り道、住吉道、打越山への3分岐 15:51



2017.6.14 住吉谷 五助ダムサイト 15:47



2017.6.14 住吉川の治水・治山の案内板 住吉谷 五助ダムサイトで 15:47

是非 歩いてみたかった住吉谷。

本庄堰堤・五助ダム そして道標に記された峠・山・地名は覚えているのですが、頭にあるイメージとは大きく乖離。緑に包まれて心地よい谷歩き。また、話でしか知らぬ阪神大水害を起こした住吉谷とそれを契機に一機に進んだ表六甲の治山・治水の歴史と六甲越の歴史の道。 いろんな思いも一緒に須磨では味わえぬ谷道に満足感いっぱい。

まだ、この五助ダム周辺は六甲の山腹なのですが、すぐ下からは高台に広がる住吉地区の住宅地。ぶらぶら街を眺めながら、住吉台から住吉川沿い白鶴美術館前の坂道を下って阪急御影駅まで まだ長い街歩きが残っている。



2018.6.14 住吉川沿いを下って、阪急御影駅へ 16:40



2018.6.14 住吉台への登り道 ここはまだ六甲の山の中腹 標高200mから300m 本庄堰堤では 六甲の山腹この辺りまで住宅地が広がっている ここからは住吉谷の谷地から白鶴美術館前へ登り道・住吉谷を眺めてよく



2018.6.14 住吉谷の住宅地を抜け、やっと白鶴美術館前へ 14:24 せっ・バスに乗れるのですが、今日はさうり阪急御影駅まで、まだ1分はかかるだろう



梅雨の晴れ間 急に思い立ってかつてよく通った東六甲へ 六甲山上へは何度も上がるのですが、ここ10数年歩いたことがない東六甲。 興味深々で歩きました。

毎年この時期訪れる六甲高山植物園 ことしも多くの花に出会えて満足。
そして、久しぶりに歩いた六甲山上walk・六甲最高峰 そしてそこから下った住吉川沿いの住吉道。興味深々 六甲からの大展望を楽しみながらのうれしい緑の森のハイキング。
こんなによく整備され、静かでゆっくり 緑の中を歩けるのか……とびっくり。

須磨の西六甲からは見られない東六甲。
六甲最高峰からは 眺めたかった阪神間の市街地から大阪湾までの大展望。
そして故郷尼崎の街もくっきりと。
住吉川の古道 住吉道 楽しみにしていた五助ダム周辺・そして住吉道
かつては荒れ果ててはげ山だった山中が本当に心地よい緑のハイキング道に。
でも最初 御影から住吉道のぼろうか・・・と思いましたが、
あの長い六甲山頂までの谷筋道。ちょっと恐れをなして下ることに。正解でした。
やっぱり住吉道のアプローチの長さは記憶通りやっぱり長い。
でも もうわかったのでどこかで挑戦。

次は もう一つ気にかかっていた東六甲の道 東おたふく山・奥池ハイクをやろう
東六甲の様子もだいぶんわかったので 楽しめそう

見どころ満載の一日を思い浮かべながら ぶらぶら
住吉川沿いの道 阪急御影駅までの急坂を下りました。

2018.6.14.夕 心地よい疲れの中で Mutsu Nakanishi

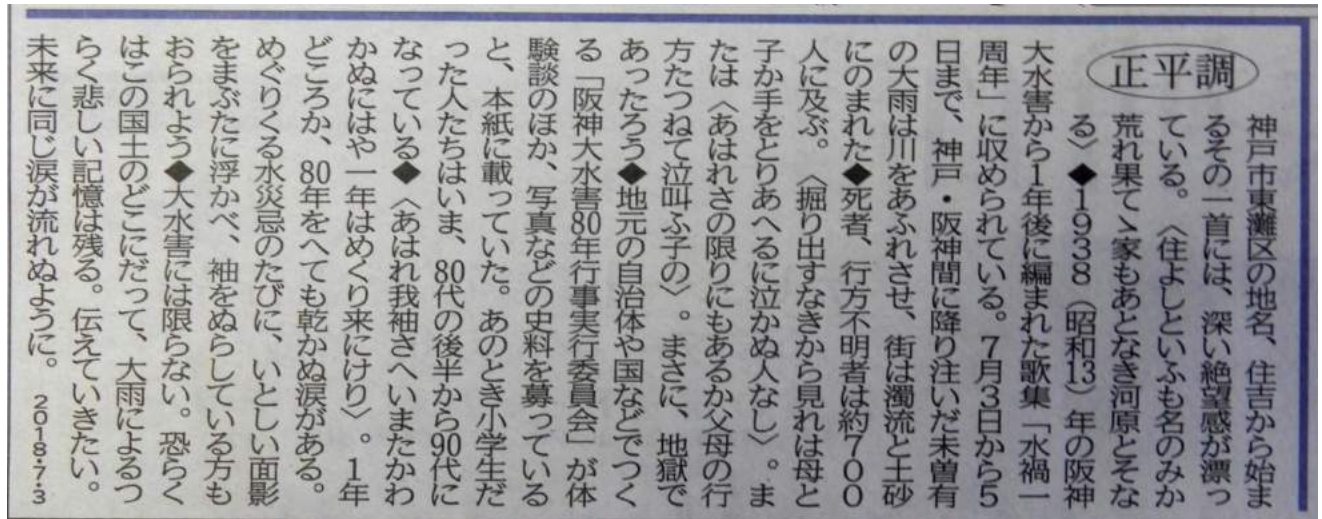
【 参 考 】

1. 六甲の川物語「住吉川物語」国土交通省 六甲砂防事務所

<https://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/rokko/study/sumiyoshi/sum-b.pdf>



2. 神戸新聞コラム「正平調」 2018.7.3より 住吉谷・阪神大水害の記憶



【追伸】

7月5日-7日 兵庫県は記録的な大雨に見舞われ、大きな被害が出ています。
住吉川流域でこんなに治水・治山工事が進められていても、まだ 収め切れていない。
被災された皆様にお見舞い申し上げます。

特に近年の地球環境変化による異常気象のすごさはほとんど経験則が通用しない。
遊歩道があり、美しい住吉川が、いったん荒れ狂うとものすごいことに。
平時では想像もつかない姿。どうかそのすごさに驚愕するとともに、
そんな局面に直面した時の身を守る術を
それぞれ事前に 十分ご検討ください。

2018.7. 7. Mutsu Nakanishi



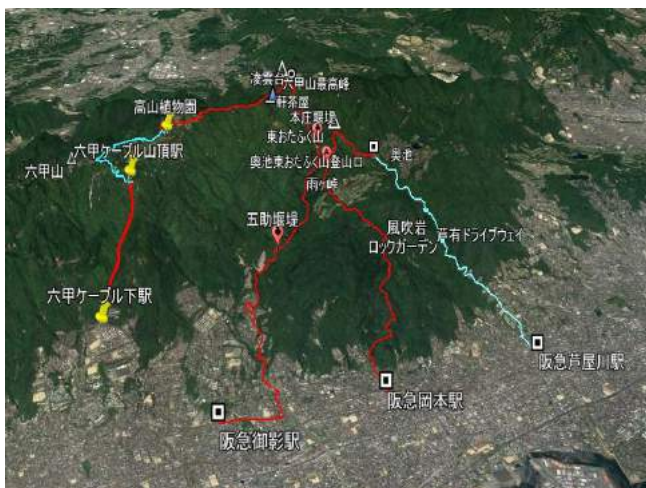
住吉川周辺がこんな姿に 2018.7.5.

【Photo Album & スライド動画】

2018.6月 梅雨の晴れ間 久しぶりに 東六甲を歩く【2】

2018 Walk
08

保久良神社から尾根筋を風吹岩・雨ヶ峠を経て東おたふく山へ 2018.6.22.
いつも気になっていたお多福山 胸を膨らませて阪急岡本駅からスタート
ずいぶん久しぶりのルートをハイク 草原が広がるお多福山へ 奥池に降りる



6月16日 六甲山上 高山植物園から東へ縦走路を歩いて、六甲最高峰に登り、そこから六甲越の古道 魚屋道・住吉道が通る住吉谷を下って、東灘へ。表六甲の急な谷筋 住吉谷を久しぶりに walk。

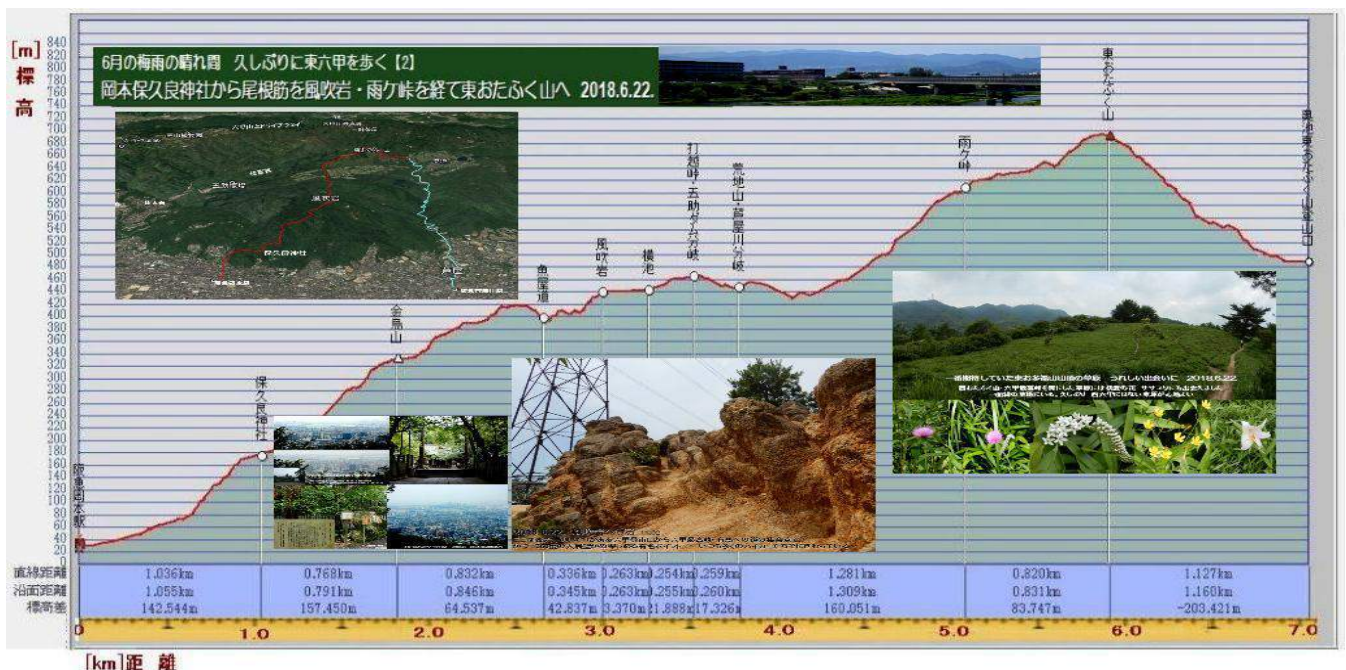
引きつ続き、6月22日 ぜひ歩きたかった表六甲の尾根筋を歩いて、草原が広がるお多福山へ期待いっぱいに出かけました。

眼下に東灘の沿岸部を見下ろす保久良神社・久しぶりの巨岩 風吹岩・芦屋 GC を横切りまじかにみる六甲稜線等々変化に富んだ表六甲の尾根歩き。岡本駅から3時間ほど。尾根筋の緑を楽しんだ展望コースから、林の中を抜け、六

甲稜線を直上に眺める東お多福山山上の緑の草原から山頂へ。下山路奥池への下りが短いのも年寄りには魅力でした。

梅雨の晴れ間 霞んで大阪湾沿岸がかすんでいたのは残念でしたが、念願だった東お多福山に登れ、六甲稜線をバックに初夏の花咲く心地よい緑の山上草原に出会えて喜び一杯のうれしい東お多福山 walk になりました。

阪急岡本駅→保久良神社→金鳥山→風吹岩→芦屋 GC→雨ヶ峠→東お多福山→奥池登山口→阪急蘆屋川駅





尼崎と西宮の境を流れる武庫川 この土手から眺める東六甲の姿は私にとっては小さい頃から朝夕慣れ親しんだ景色。東端にこんもりと甲山がみえ、その後ろに東六甲の山々が連なる六甲が一番美しく見える景色。電車に乗ると毎度探す景色でもある。須磨に移り住んで、西六甲に登る機会は増えましたが、東六甲に行く機会もなく、イメージだけが頭に残っている。

須磨西六甲の鉄拐山から眺める六甲の山並み。六甲稜線の山々の後遠くに隠れるように、東六甲の山々の山裾が遠望される。

「長いこと東六甲の六甲最高峰や表六甲住吉谷 それに山裾だけが見えてい
るお多福山・甲山にも登っていない。今はどないなっているのだろうか？」
と好奇 の虫が騒ぐ。

かつてよくハイキングに出かけた場所ではあるが、住宅地として大きく変貌した阪神間六甲の山腹。色々話は聞か・・・と興味深々。
この梅雨の晴れ間 電車にえば1時間もかからず麓に行けるので、
毎日の健康 walk に東六甲へも足を延ばそう。

一番行きたいのは住吉川の谷筋とお多福山そして最後は甲山へと。





6月22日晴天の朝9時半 お多福山ハイクに胸膨らませて、阪急岡本駅に降りる。六甲連山から沿岸部までの距離が短く、六甲山麓の急傾斜地に広がる東灘の街。今は高級住宅街・学生の街と大きく変貌を遂げた阪急岡本駅に降り立つのも久しぶり。駅の東から踏切を渡り、住宅の中の坂道を北へ上る。傍らには保久良神社への道標が立っている。表六甲から六甲へのハイキングコースとして、一番ポピュラーな道の一つである。正面に保久良神社のある尾根筋を眺めながら坂道を登りきると天井川が流れ下る八幡谷の入口。保久良神社へは右に車道があり、山を登るのですが、まっすぐ川に沿って公園を抜けて、山道を登って保久良神社へ行く。緑に包まれた林の中 ほどなく傾斜が緩くなり、尾根の上 保久良神社の境内に。すぐ前には尾根筋を金鳥山を経て 六甲へ上る案内標識が見える 突然 尾根の上にある保久良神社の境内で イノシシに遭遇 ええ!! 住宅地のすぐ上 保久良神社にもイノシシがいるのか・・・・・・ この尾根筋の上 風吹岩周辺には以前からイノシシの親子が出てくると知っていたので、尾根筋でイノシシに出会うかも・・・・・・と想着ていましたが。。。いきなりの出会いにびっくり。



南北に延びる尾根の先端にある保久良神社 正面鳥居前からは東神戸の市街地から大阪湾が一望 絶好の展望地に整備されていました。市民憩いの場所でもあるが、緑に包まれた静かな森。かつて神社が焚く篝火が中行く船の航行の目印であり、境内には幾つも巨岩の磐座があり、神宿る森。そんな雰囲気漂う静かな森である。





東灘市街地の展望を楽しんだ後、境内を抜けて、北へ尾根筋を登ったところに金鳥山・六甲最高峰・有馬への案内板があり、緑の樹木に包まれた心地よい尾根筋の登山道 緑を満喫しながら金鳥山から風吹岩へ登ってゆく。



少し登ったところで、樹木の中に左へ休憩所ありの標識、南側に展望の利く広場。北側は樹木に覆われていましたが、このあたりが金鳥山頂上周辺で、六甲アイランド周辺が遠望できました。また、北の林の中に金鳥山の頂上探しましたが、三角点を見つけられず。視界が開けず通過して、元の登山道に出て 登山道は金鳥山の北側への下り坂の道に。





保久良神社から30分ほど金鳥山を北に下り終えたところが西へ八幡谷・住吉谷の分岐点。ここから、道は熊笹の中。

熊笹を抜けると杉林の中。同じ尾根筋の林の中ですが、次々と森の様相が変化。また、山は花崗岩の山なのですが、この尾根筋道も土が真砂土・赤い粘土質だったり、土砂だったり、場所場所で一機に色々変化していて面白い。六甲山そのものが長い年月の中で、さまざまに変化してきた歴史なのだろうと。

緑の中を抜けるとT字路に出て、南から登ってきた古道「魚屋道」に合流する。 芦屋の弥生の高地性集落「会下山遺跡」から上へ登り、魚屋道に合流して風吹岩へ登ってくる道で。以前何度かこの道も登ったことがある道だ。 ここまでくると風吹岩はもうすぐ。

また、空が開けて 明るい尾根筋道に 次々とコブを超えて登る度に 森の色が次々と変化して美しい。空が開けて道がだんだん急になり、岩肌が露出したゴロゴロ道の登りに 風吹岩近しと。



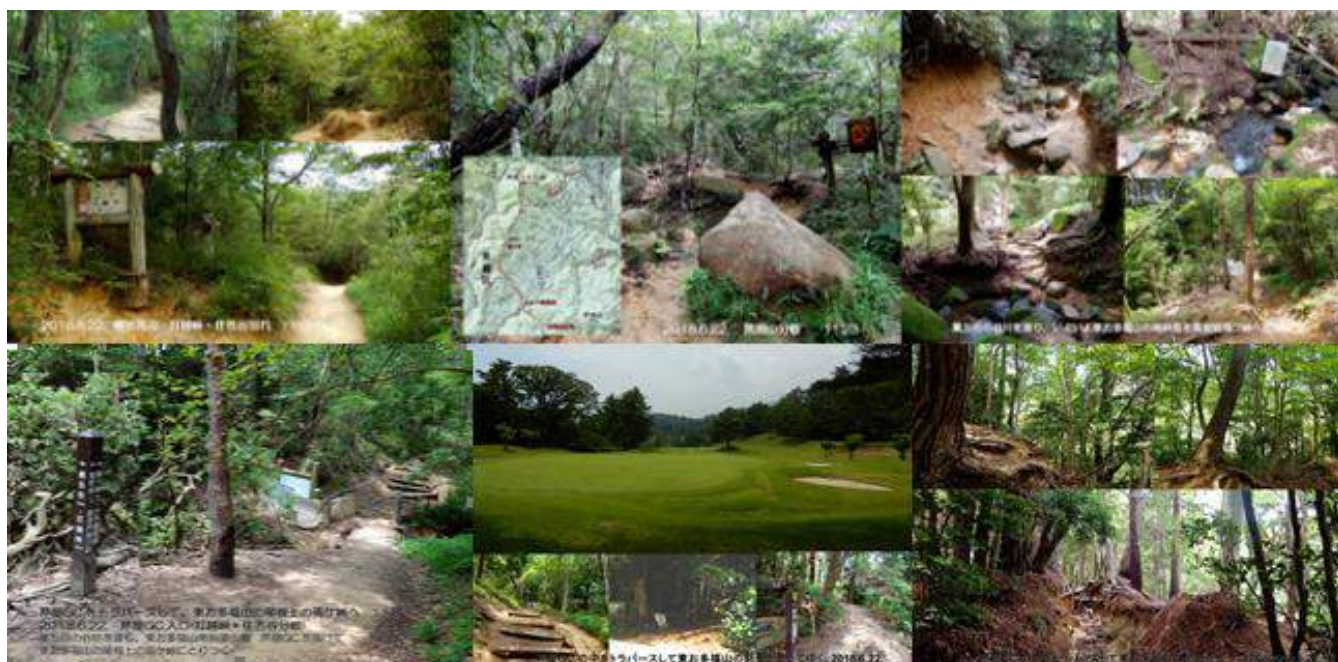
ゴロゴロ道を登りきると右に大きな岩壁の出口に飛び出し、ぱっと視界が開けたT字路。今見た岩壁が風吹岩。1102 保久良神社から、約1時間で360度の大展望が開ける風吹岩の上に立ち、久しぶりに周囲の山々や霞んではいるが、大阪湾の遠望 そして六甲の山を渡りゆく送電線等々 記憶を思い起こしながら大展望を楽しみました。





2018.6.22. 西側には 日本のロック・クライミングの発祥地 岩肌を随所にみだす荒地山

荒地山はロックガーデンの中央稜から高座谷をはさんで山腹に岩が立ち並ぶ山。多くのクライマーが訪れる山である。まだ 梅雨時 期待道里には行きませんでした。岩の上に立ってぐるりと体を1回転させて眺める360度の大展望 実に爽快でした。風吹岩の展望をそうそうに切り上げ、樹林帯の中 尾根筋を下って東お多福山へ向かう 11:10 すぐに打越山別れ・荒地山の別れの標識を過ぎ、樹林の中 黒五谷の谷川を渡るといよいよ東お多福山の尾根筋にとりつく。東お多福山南斜面山腹に広がる芦屋 GC の中を通過して、山腹を登るとほどなくお多福山稜線南端 雨ヶ峠到着である。



芦屋 GC.をトラバースして、東お多福山の尾根上の雨ヶ峠へ 芦屋 GC.入口(打越峠・住吉谷分岐) 11:33

20 分弱で斜面を登り切り、南北に延びる東お多福山の稜線尾根の南端、樹木に包まれた雨ヶ峠に到着 12:00
 ここからまっすぐ北へなだらかな稜線尾根を登れば、東お多福山。
 六甲最最高峰・有馬への道「魚屋道」は西へお多福山の稜線を乗越してゆく。



雨ヶ峠から北へなだらかな頂上稜線を少し歩くと視界が開け、広い山草原が広がる東お多福山山上である



東お多福山の山頂は山上の一番北の端 この草原を越えた奥である





お多福山山上からながめる六甲稜線 左に電波塔のある西お多福山 右中央鉄塔の見える六甲最高峰



東お多福山山頂の草原【1】南側を振り返る 2018.6.22.



東お多福山山頂の草原【2】北側にもう一つ東お多福山の山頂がある丘が見える 2018.6.22.

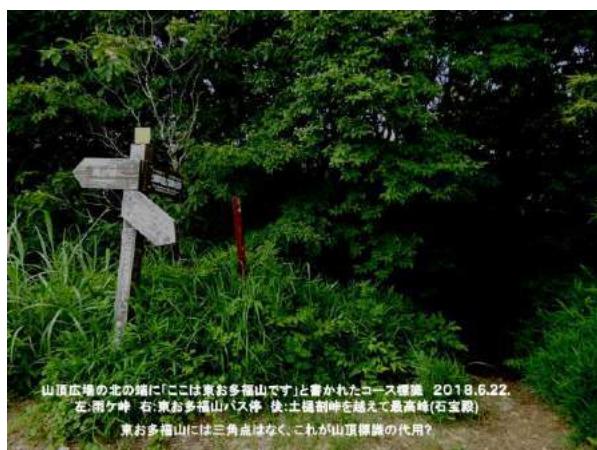
是非 遠い朧気の記憶しかない東お多福山の草原 こんなに美しく整備されて、初夏に咲く山野草にも出会えた。
西六甲にはない草原の山 緑が目にしむ 草原に寝転んで こんなに近くに 六甲稜線の鉄塔も見られました。
もっと早く来るべきだったと うれしい出会いに大満足。 頂上へは北へ もう一つ丘を登る



東お多福山山頂 樹林の中を抜けるとお多福山稜線の北の端
景観が開けた平らな丘が見えてくる 坂道を上げればお多福山の山頂です 2018.6.22



東お多福山山頂 山頂は東側が開けた広場 2018.6.22. 12:27



山頂広場の北の端に「ここは東お多福山です」と書かれたコース標識 2018.6.22.
左:雨ヶ峠 右:東お多福山バス停 後:土樋割峠を越えて最高峰(石宝殿)
東お多福山には三角点はなく、これが山頂標識の代用?

東お多福山には三角点はなく 山頂広場北の端に
左:雨ヶ峠 右:東お多福山バス停 後:土樋割峠を越えて最高峰
(石宝殿)のコース標識が建っている

この柱に「ここは東お多福山です」と書かれていて、
これが山頂標識の代用?

また、この山頂広場からは東側がオープンで、芦有道路沿い山
中に開けた街「奥池」が見える。

その奥が大阪湾沿岸の市街地が遠望されるのですが、やはりぼ
んやりとしか見えす。



後:土樋割峠を越えて
最高峰・石宝殿への下り口

東:芦有道路 奥池
東お多福山バス停への下り口

南北に連なる東お多福山 東お多福山山頂広場の北端の下り口を眺める 2018.6.22.
山頂では東側に視野が開け、東に見える地根筋の山裾には奥池の住宅地。
そして遠く大阪湾沿岸の市街地が遠望されるがここでも今日はさすがに遠くはほとんど見えませんでした。



山土稜線を南の雨ヶ峠へ



東お多福山からの展望【1】 2018.6.22.
視界の開けた東側には芦有道路沿い山中に開けた街「奥池」が見える



東お多福山からの展望【2】 2018.6.22.
目を南東側に転ずるとうっすら西宮の沿岸部がみえるが全体にかすんでよく見えない。
やっぱり 梅雨の晴れ間です

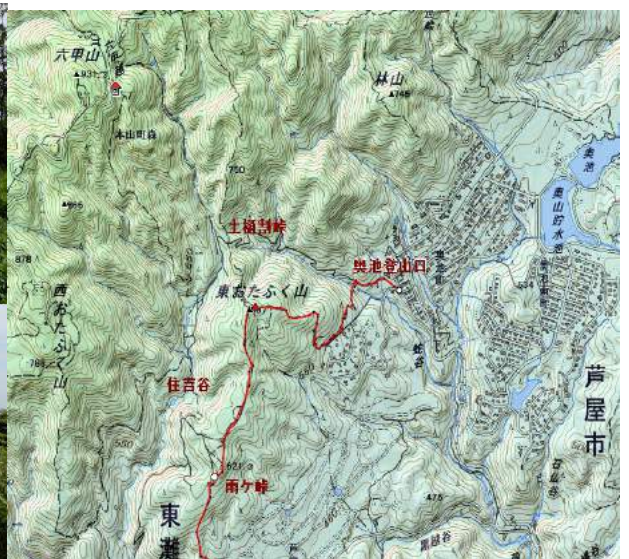
東お多福山から奥池へ降る 2018.7.22. 12:32
念願だった東お多福山に登れ、梅雨の晴れ間 霞んで大阪湾沿岸がかすんでいたのは残念でしたが、六甲の稜線をバックに初夏の花咲く心地よい緑の山上草原に出会えて喜び一杯でお多福山山頂を後にして、東の芦有道路に登山口とバス停がある「奥池」へ下る。
芦有道路が開通してできた山中の高級住宅地。ハイキングの地だったのですが、一番短く下山できて、バスに乗って阪急芦屋川駅に行ける。また、六甲山上稜線や住吉谷からの下山口でもある一度行って見たかった場所でもある。



東お多福山から奥池へ降る 2018.7.22. 12:32
念願だった東お多福山に登れ、梅雨の晴れ間 霞んで大阪湾沿岸がかすんでいたのは残念でしたが、六甲の稜線をバックに、初夏の花咲く心地よい緑の山上草原に出会えて喜び一杯で山頂を後にする



東お多福山山頂から山上を東へ 正面の奥池の街に向かって下ってゆく 2018.6.22



山上を横に、一瞬に樹林の中 急な坂道になって下ってゆく。12:37



歩きにくい山道でしたが、15分ほどで 奥山の配水渠の横に出るが、急な下り道に注意、山頂を北へ歩いてゆく。12:48



山道を下り終えて、小さな谷川を渡り、土樋割時から下ってきた舗装道路に合流 12:56



芦有道路奥池 東お多福山登山口バス停に到着

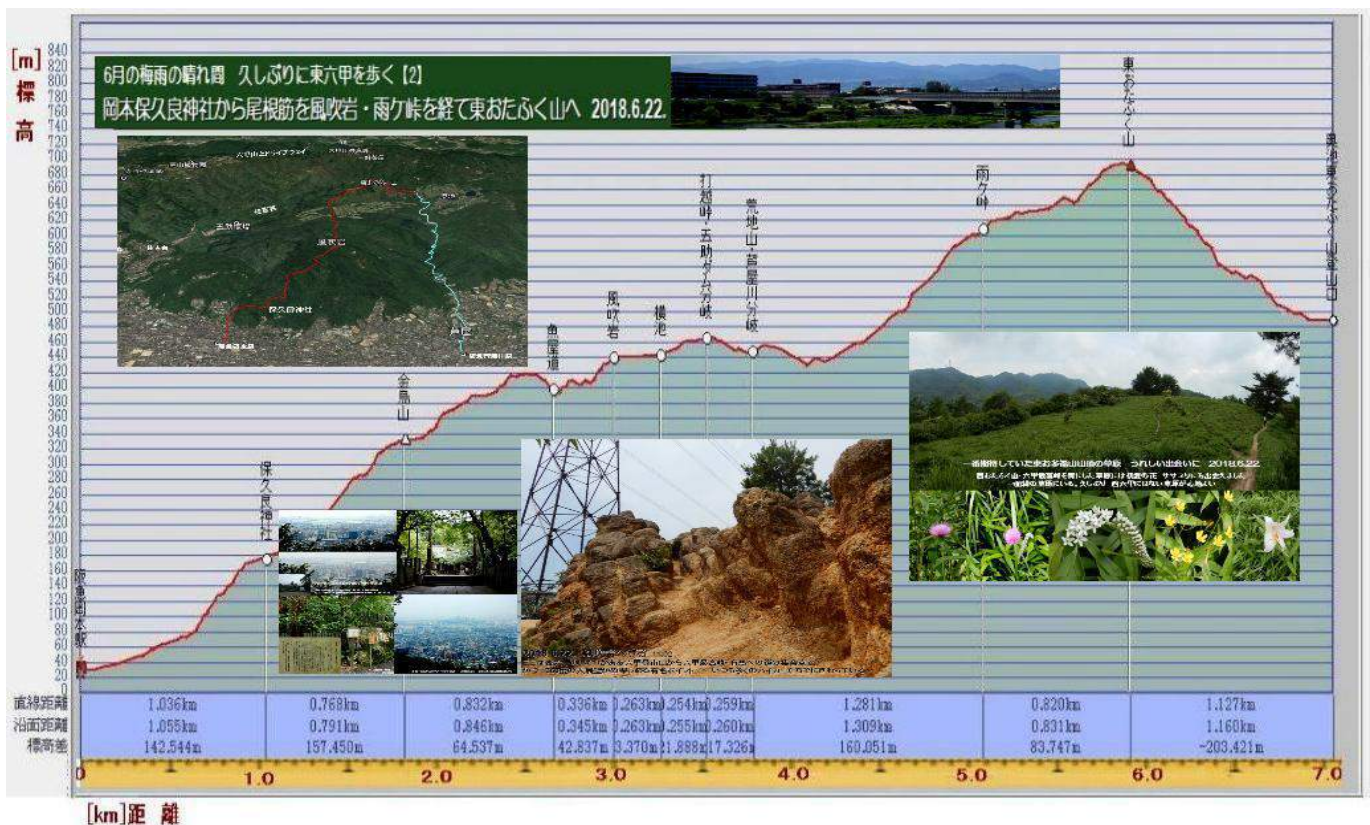
2018.6.22.13:03

梅雨の晴れ間 霞んで大阪湾沿岸がかすんでいたのは残念でしたが、
 念願だった東お多福山に登れ、六甲の稜線をバックに初夏の花咲く
 心地よい緑の山上草原に出会えて喜び一杯のうれしい東お多福山 walk
 眼下に東灘の沿岸部を見下ろす保久良神社・久しぶりの巨岩 風吹岩・
 芦屋 GC を横切りまじかにみる六甲稜線等々
 岡本駅から2時間ほどの中でゆっくりと この変化に富んだ展望コースを歩け、頂上からの下り
 が短いのも年寄りには魅力です。
 また、奥池の街に降りて芦有道路を阪急芦屋へ下るバスに乗るのも初めて。もっとバス賃が高い
 と思いましたが、案外安いのにもびっくり。
 いつも気になっていたお多福山 すっきりしました。
 でもやっぱり一番は西六甲にはない緑の草原かなあ
 ぜひ今度は展望が聞く時期にと。
 よく整備された芦有道路をバスで下りながら

2018.6.22. 午後 Mutsu Nakanishi



岡本保久良神社から尾根筋を風吹岩・雨ヶ峠を経て東お多福山へ 2018.6.22.



2018 6月 梅雨の晴れ間 久しぶりに 東六甲を歩く

1. 六甲高山植物園より六甲最高峰を経て
久しぶりに住吉谷を下る 2018.6.14.

2. 岡本 保久良神社から尾根筋を風吹岩・
雨ヶ峠を経て東おたふく山へ 2018.6.22.

梅雨の晴れ間 久しぶりに六甲山上 Walk
東六甲の六甲高山植物園・六甲山最高峰へ
長いこと歩いていない東六甲の住吉谷を下りました。
また 別途 以前から気になっていた六甲越の古道・
東おたふく山への道を辿りました。

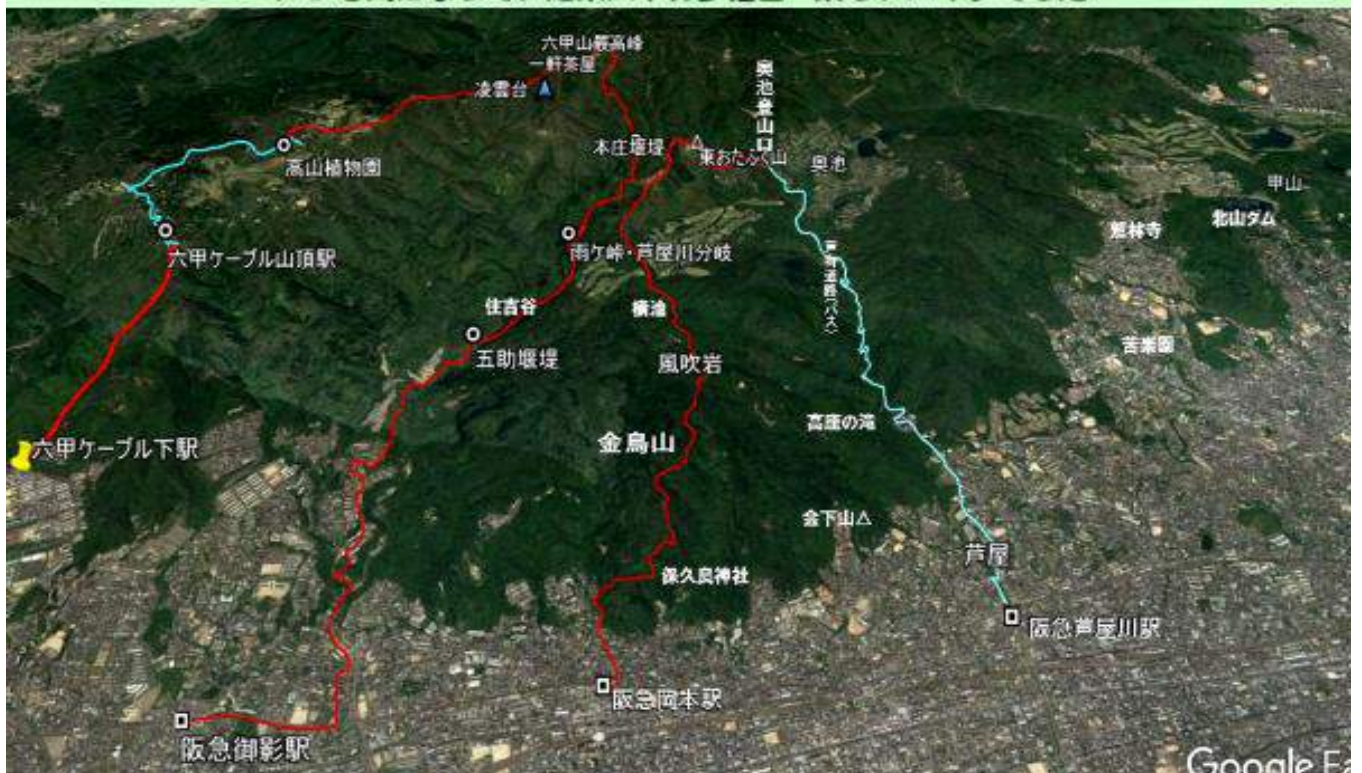
もう何十年も歩いていない住吉谷・おたふく山
雨上がりで美しい新緑の中を種々初夏の野草にも出会
え、うれしいwalkでした。



私の一番好きな六甲の景色のひとつ 武庫川土手から眺める東六甲の姿
小さな時から、私の慣れ親しんだ景色でもある



6月の梅雨の晴れ間 久しぶりに東六甲を歩く【2】
岡本保久良神社から尾根筋を風吹岩・雨ヶ峠を経て東お多福山へ 2018.6.22.
ずいぶん久しぶりのルート 草原が広がるお多福山から奥池に降りる
いつも気になっていた東六甲お多福山 楽しいハイクでした



【Photoアルバム】

うれしい秋の訪れ 西神戸・東播磨 2018初秋

西神戸 & 西播磨 の 里の秋 小さい秋 みい~つけた!!

1. 初秋の西神戸

みのりの田園地帯を彩る彼岸花 白川&伊川谷の里で

2. 初秋の東播磨

志方広尾集落から福匂峠を超えて小野市きすみのを訪ねる

コスモスの里志方広尾&福匂峠から見るきすみの棚田・きすみののそば畑

3. 東播磨 酒米 山田錦の郷に秋を告げる風物詩

中国道沿い加東町から三木市吉川

酒米の田の畦にはためく酒蔵の旗 加東町木梨の郷ほかで



うれしい秋の訪れ 西神戸・東播磨 2018初秋
西神戸 & 西播磨 の 里の秋 小さい秋 みい~つけた!!

1. 初秋 西神戸

みのりの田園地帯を彩る彼岸花 白川&伊川谷の里で

1. 西神戸 白川の里の彼岸花
2. 西神戸 押部谷の里の彼岸花

うれしい秋の訪れ 西神戸・東播磨 2018初秋

西神戸 伊川谷小寺で
2018.9.26.



嬉しい秋の訪れ 西神戸・東播磨 2018初秋

【1】初秋 西神戸 白川の里の彼岸花

遠く近くの白川の里で彼岸花が咲きだしました。2018.9.17.

初秋 白川の里で 2018.9.17.



初秋 白川の里で 2018.9.17.



初秋 白川の里で 2018.9.17.

毎日walkの道に今日は白川峠の北側の白川の里へ
お彼岸には少し早いのですが、ガンバナが咲きだしたのでは・・・と
毎年 お彼岸の日が近づくと一機に咲いて 稔りの畔を彩るヒガンバナ
西神戸の田園地帯 山裾の里の「稔りの秋」を告げるヒガンバナ
今年も美しく里の秋を彩り始めました。
うれしい秋の訪れです





初秋 白川の里で 2018.9.17



初秋 白川の里で 2018.9.17



初秋 白川の里で 2018.9.17



初秋 白川の里で 2018.9.17



初秋 白川の里で 2018.9.17



初秋 白川の里で 2018.9.17



初秋 白川の里で 2018.9.17



初秋 白川の里で 2018.9.17





初秋の東播磨

志方広尾集落から福匂峠を超えて小野市きすみのを訪ねる

コスモスの里志方広尾&福匂峠から見るきすみの棚田・きすみののそば畑

また、台風襲来が迫る9月28日

久しぶりの快晴 秋の空 原チャリを走らせるのも久しぶり

西播磨の初秋 私のとおきおきの里山の風景 今年も出会えました

1. 加古川中流西岸 里山に囲まれて 美しい田園が広がる加古川市志方広尾の里
2. 志方から 棚田の美しい峠道 福匂峠を超えて
小野アルプスの山裾 そばの里 小野町きすみ野へ





うれしい秋の訪れ 西神戸・東播磨 2018初秋
西神戸 & 西播磨 の 里の秋 小さい秋 みい~つけた!!

3. 東播磨 酒米山田錦の郷に秋を告げる風物詩 酒米みのりの田の畦にはためく酒蔵の旗

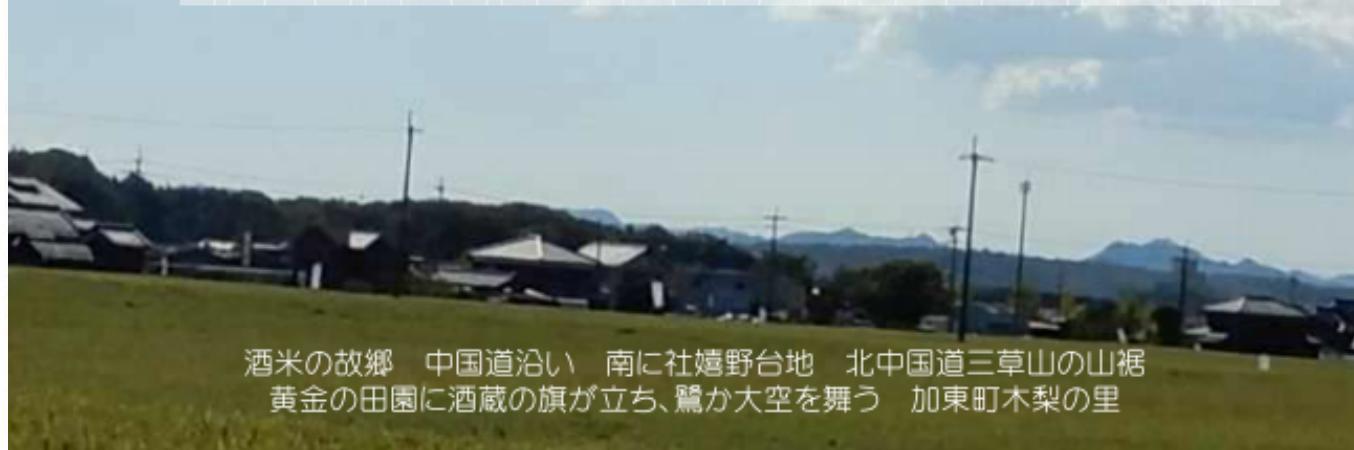
中国道沿いの丘陵山裾 加東町木梨から三木市吉川・細川へ

剣菱が育てた酒米「愛山」の里 加東町木梨

【参考】東播磨の田園に初秋を訪ねる 2015東播磨 酒米の郷に秋を告げる風物詩
剣菱が守り抜いてきた酒米「愛山」の話を収録しています

<http://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/walk12/1510kakogawa00.htm>

加古川中流の滝野 閼竜灘 & 彼岸花の里 多可町・酒米「山田錦」の里 加東・三木吉川



酒米の故郷 中国道沿い 南に社嬉野台地 北中国道三草山の山裾
黄金の田園に酒蔵の旗が立ち、鷺が天空を舞う 加東町木梨の里



酒米の故郷 加東町木梨の里 黄金の田園に酒蔵の旗が立ち、鷺が天空を舞う
中国道沿いの南に社嬉野台地 北中国道三草山の山裾に広がっている 2018.9.28.



酒米の故郷 加東町木梨の里 2018.9.28.



酒米の故郷 加東町木梨の里 2018.9.28.



酒米の故郷 加東町木梨の里 2018.9.28.



酒米の故郷 加東町木梨の里 2018.9.28



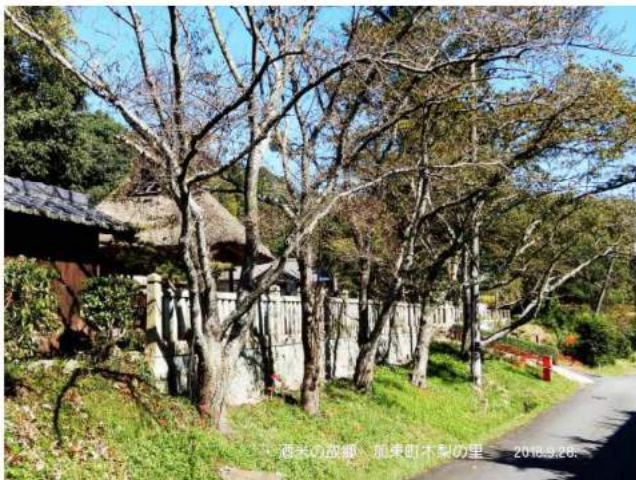
酒米の故郷 加東町木梨の里 2018.9.28



酒米の故郷 加東町木梨の里 2018.9.28



酒米の故郷 加東町木梨の里 2018.9.28



酒米の故郷 加東町木梨の里 2018.9.28



酒米の故郷 加東町木梨の里 2018.9.28



酒米の里の初秋 田の群ではためく酒蔵の旗
酒米の故郷 加東町木梨から東の三木市口吉川へ 2018.9.28



田舎の 酒蔵の旗の群 2018.9.28



口吉川 蓮花寺集落の棚田 2018.9.28.



蓮花寺集落を下って、口吉川・細川の田園地帯に出て、神戸へ戻る 2018.9.28.
一日原チャリで、黄金色の田園地帯を走って、
里山の連なる西播磨の初秋を眺めることができました。
毎年のおだやかな里の秋にほっとする一日 ルンルンで帰途に。



蓮花寺集落を下って、口吉川・細川の田園地帯に出て、神戸へ戻る 2018.9.28.
一日原チャリで、黄金色の田園地帯を走って、
里山の連なる西播磨の初秋を眺めることができました。
毎年のおだやかな里の秋にほっとする一日 ルンルンで帰途に。



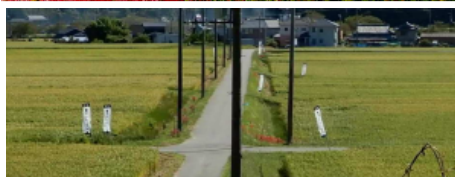
1 初秋 西神戸
みよりの田園地帯を走る彼岸花 白川・伊川の里で
1 西神戸 白 川の里の彼岸花
2 西神戸 押部谷の里の彼岸花

嬉しい秋の訪れ 西神戸・東播磨 2018初秋

西神戸 伊川谷小寺で
2018.9.26.



初秋 白川の里で 2018.9.17.



酒米の収穫 伊東町本型の里 2018.9.28.



2018.9.28. 小豆沢村三丁、南播磨から眺める神道の棚田
西を折る。美しい秋道の棚田です。



酒米の収穫 伊東町本型の里 2018.9.28.

2018 Walk
10

2018 西神戸・須磨界限 10月 深まり行く秋点描

小さな秋 みい〜つけた 気ままな須磨・東播磨の walk



澄みわたる空に爽やかな風が吹き渡る秋 各地からコスモスの便りも届く

須磨の浦の海を見下ろす山の縦走路ではコスモスの花が風に揺れ、街の街路樹も色づきはじめました
 毎年かわらぬ深まり行く秋の須磨・東播磨の秋 walk ですが、**小さい秋みい〜つけ!!2018** をスライドに



南の須磨の浦に沿って 西六甲の山々が連なる私の住む妙法寺・北須磨界限
 丘陵地が広がる山裾や岡には緑に包まれてニュータウンの街々が広がり、その西には広大な東播磨の田園地帯に
 西神戸の田舎が点在する。街と里 山と海を楽しめる気ままな散歩道 秋晴れの午後 今日どこを歩こうかと。
 須磨・東播磨の深まり行く秋 相変わらずの気ままな walk で見つけた「ちいさい秋」2018 年のアルバムを
 スライド動画にまとめ、BGM をつけて、秋の夜長を楽しんでいます。

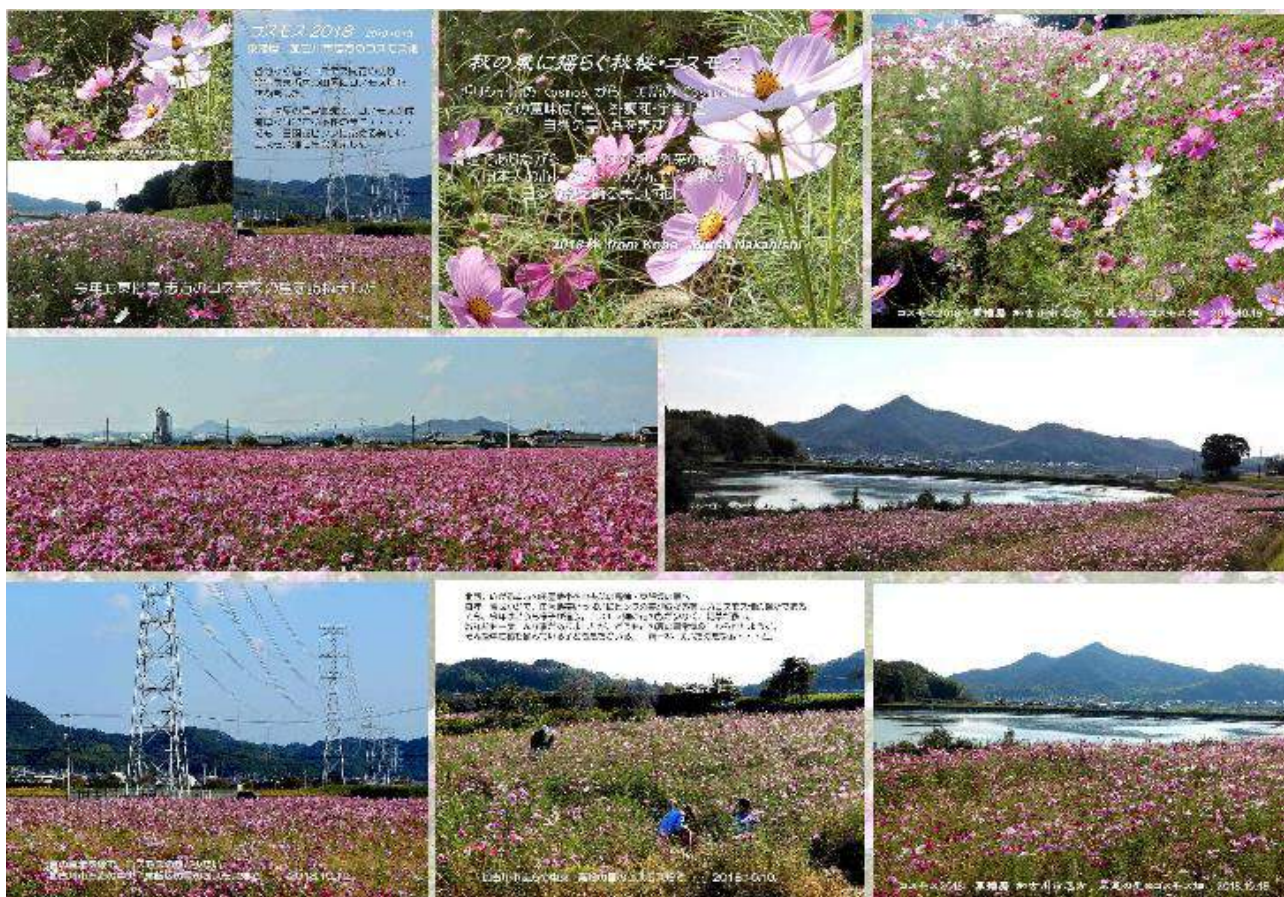
2018 10月 深まり行く秋点描 Album 抜粋

	■ 高塚山から眺める播磨灘・明石海峡・大阪湾沿岸全景 沿岸を穿へ連なる六甲連山 全山縦走路の山々の展望 ■ 2018秋 コスモス from Kobe 西播磨のコスモスの里 志方を駆ける ■ 秋の日暮れはつるべ落とし 橘屋敷で茜色に染まる日暮れを楽しむ ■ 秋のバラ2018 須磨離宮公園で ほか 彼岸花が田んぼの畔を飾る10月後半 やっと天候も落ち着き、秋晴れに。 田園では米の収穫、野焼きの煙が立ち上っています。 田園が広がる西神戸では、イチジクやなし・栗そして黒豆など 秋の果実もとりどり うれしい秋の直売場。なんとか異常気象に持ちこたえたようでうれしい限り。 ふと見る庭の柿の木には実がいっぱい。今日はメジロが実を突ぎに来ています。 孫の運動会・学園祭やクラブの大会にの応援にも、 「疲れるなあ」と言いながらもうれしい秋です
©2018. 10. 12. 	台風一過 戻ってきた秋晴れ 久しぶりに学園都市の高塚山に登ると明石海峡から西六甲連山全体の素晴らしい展望 左に大阪湾 右に播磨灘が広がる真正面明石海峡の向こうに淡路島が一望。 東に目を向けると神戸の市街地を前に須磨から宝塚へ続く六甲連山の全景が見える。 やっと見れた景色です。
©2018. 10. 26. 	各地からもコスモス開花の便りが届き、 丘に登ると秋桜・コスモスが 風に身を揺らしています。 清楚でありながら生命力の強い外来の花 日本人の心にそっと入り込んで咲く日本の花に。 今年は夏の異常気象で雑草がはびこる不作の年になりましたが、 今年も東播磨の田園をピンクに染める美しいコスモス畑。 うれしい出会いになりました。
©2018. 10. 15. 	秋の夕暮れはつるべ落とし。 茜色に染まり刻々と変化する夕日を眺めながらのwalkは毎日の楽しみ。 この夕暮れをデジカメに収めようとするのですが、 なかなかうまくゆかず。 やっと1枚茜色の空をバックに播磨灘に浮かぶ家島群島に沈む夕日が撮れました。
© 2018. 10. 26. 	ばらの香りの散歩道 午後のひとときをゆったりと 須磨離宮の庭園で、秋のバラが咲きだしました。 香のバラとは違って、大輪のバラが主。 アンネのばら・プリンセス ダイアナのばら・プリンセス ミチコのばら等々 名前はまったく覚えられませんが、そっと顔を近づける。

◆ 2018 秋 コスモス from Kobe 西播磨のコスモスの里を駆ける



◆ 2018 秋 コスモス from Kobe 西播磨のコスモスの里を駆ける



◆ 播磨灘に沈む夕日 秋の日暮れはつるべ落とし 横尾道で茜色に染まる夕日を楽しむ



◆ 秋のバラ 2018 バラの香りの散歩道 須磨離宮公園で



さわやかな秋の風 深まり行く秋を元気に!!

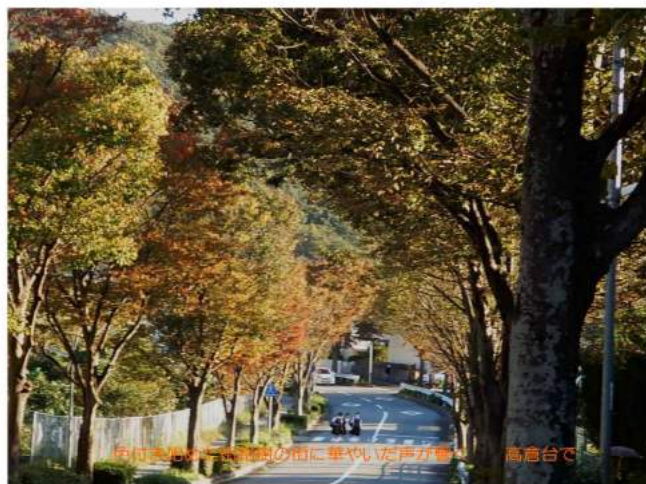
2018年秋 Mutsu Nakanishi from Kobe



＜ 参 考 ＞

10月 深まり行く秋点描 小さい秋 みい〜つけ!! 2018 西神戸・須磨界隈 気ままな須磨・東播磨のwalk
 「和鉄の道・Iron Road」home page の【スライド動画】&【Photo アルバム】 Link
 インターネットに接続していれば 下記のURL Linkからも 動画・photo アルバムが見られます

- 【スライド動画】 <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/18walk10.mp4>
- 【Photo アルバム】 <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/18walk10photo.pdf>
- home page <http://www.infokkna.com/ironroad/2018htm/walk15/1811akisumawalk00.htm>





明石海峡・須磨の浦に没する六甲連山の西端
左から旗原山・鉢伏山の尾根が、塩谷海岸で明石海峡に 2018.10.12



西の鉢伏・旗原山から東へ連なる六甲連山 須磨アルプス 高取山
2018.10.12, 西神戸学園都市 高塚山より



遠く高取山の東に菊水山から六甲山頂へ立ち並ぶ六甲連山遠望
手前にはグリーンスタジアム神戸・名谷ニュータウン・鶴越の山麓バイパス沿いの街
2018.10.12 西神戸学園都市 高塚山より



西神戸学園都市 高塚山から眺める六甲連山遠望 2018.10.12



コスモス 2018

from Kobe Mitsuru Nakanishi

外來の花ながら
日本人の心にぞとどまり込んで咲く秋桜
日本の秋を飾る美しい花

須磨: 浦の海を見下すコスモス

涼み渡る空に爽やかな風が吹き渡る秋 各地からコスモスの便りも届く
よく整備されたおらが山の縦走路
須磨の浦の海を見下ろして咲くコスモスが 風に揺れています



秋の風に揺らぐ秋桜・コスモス

ギリシャ語の Kosmos から 英語の Cosmos
その意味は「美しさ・調和・宇宙」と
自然の美しさを表す

清楚でありながら 生育力の強い外來の花ながら
日本人の心にぞとどまり込んで咲く秋桜
日本の秋を飾る美しい花に

2018秋 from Kobe Mitsuru Nakanishi



コスモス 2018

今年初めて見た広大な田園が広がる
東播磨稲美のコスモス畑

2018.10.19 東播磨 加古川市稲美野のコスモス畑



2018.10.19 東播磨 加古川市稲美野のコスモス畑



2018.10.19 東播磨 加古川市稲美野 のコスモス畑



コスモス 2018 2018.10.19 東播磨 加古川市志方のコスモス畑

各地から多くコスモス開花の便り
今年も東播磨の田舎にコスモス畑を
訪ねました。

今年は夏の異常気象で、コスモス畑は
雑草がはびこる不作の年に・・・
でも、田舎をピンクに染める美しい
コスモス畑に出会えました



今年も東播磨 志方のコスモスの里を訪ねました



加古川に架かる上り橋を渡って、西に丘陵地が続く山間に入って静かな
志方の里の入口から、北西へ志方の里の田園地帯に入る。
一番先に城山の麓にある志方広尾の里へ。今年のコスモス畑は南に飯盛山を
正面に眺める池周辺の段々畑。一番好きな広尾の里の場所。
今年も素晴らしいコスモス畑の景色に出会えました。

コスモス2018 東播磨 加古川市志方 広尾の里のコスモス畑 2018.10.19



城山の山裾 集落の上の段々畑に広がる広尾の里のコスモス畑 2018.10.19



コスモス2018 東播磨 加古川市志方 広尾の里のコスモス畑 2018.10.19



城山の山裾 集落の上の段々畑に広がる広尾の里のコスモス畑 2018.10.19



秋の風に揺らぐ秋桜・コスモス

清楚でありながら、生命力の強い外来の花ながら
日本人の心にそっと入り込んで咲く秋桜
日本の秋を飾る美しい花
ことしもうれしい出会いに

城山の山裾 集落の上の段々畑に広がる広尾の里のコスモス畑 2018.10.19



コスモス2018 東播磨 加古川市志方 広尾の里のコスモス畑 2018.10.19



城山の山麓 集落の上の段々畑に広がる広尾の里のコスモス畑で、2018.10.19



広尾の里のコスモス畑からながめる南の田園と飯盛山、2018.10.19



城山の山麓 集落の上の段々畑に広がる広尾の里のコスモス畑、2018.10.19



加古川市志方の中央 高徳の里のコスモス畑で、2018.10.19

北西に広がる志方の田園地帯を中央部の高徳・東飯坂の里へ
毎年一番賑やかで、田園地帯いっぱいピンクの帯が広がる美しいコスモス畑の場所である
でも、今年はどうも様子が違う。コスモス畑の花の数が少なく、雑草が多い。
数年前も一度こんな事がありました。でもこの夏の異常気象にやられたようだ。
そんな中に花を摘んでいる子どもたちがいる。 霜一杯 咲いたのだなあ・・・と。



山に囲まれた志方の中央 送電線が走る志方高徳の里 コスモス畑、2018.10.19



夏の異常気象で、コスモスの数が少ない
加古川市志方の中央 高徳の里のコスモス畑で、2018.10.19



夏の異常気象で、コスモスの数が少ない
加古川市志方の中央 東飯坂の里のコスモス畑で、2018.10.19



田園地帯の中央の平地にある高徳・東飯坂のコスモス畑が三年の異常気象で
随分ダメージを受けていました。
田園地帯の南の緑の高地から、また来年! 元気に姿を見せてほしいと
ここから北へ城山の麓側に回り込んで、野原の里のコスモスを見て
福徳峠からさすみ野を経て帰る。



野尻の里のコスモス畑は白雲の異常な景にやられたように
この里も夏の異常気象でコスモスの数が少ない
志方城山の北側の山麓 志方野尻の里のコスモス畑 2018.10.19



志方城山の北側の山麓 志方野尻の里のコスモス畑 2018.10.19



野尻の里から、東へ小野川へ紅山の北側、小野市福留峠で
2018.10.19



野尻の里から、東へ紅山の北側 小野市福留峠で 2018.10.19



コスモス2018 東播磨 加古川市志方 広尾の里のコスモス畑 2018.10.19



コスモス2018 東播磨 加古川市志方 広尾の里のコスモス畑 2018.10.19



秋の風に揺らぐ秋桜・コスモス
清楚でありながら、生命力の強い外来の花ながら
日本人の心にそっと入り込んで咲く秋桜
日本の秋を飾る美しい花
ことしもうれしい出会いでした

城山の山麓 東播磨の上の段々畑に広がる広尾の里のコスモス畑で 2018.10.19



秋の日暮れはつるべ落とし
城尾道で 括弧に染まる日暮れを楽しむ

今日も先日勝めた日没が見られそう
城尾道と西六甲縦走路で

10.15. の夕暮れ 思いがけず出会えた茜色に染まる日没
快晴になった今日の午後 もう一度しっかり眺めたくて、
同じ道 西六甲の縦走路をたどり、帰りに日没に出会う目算

日没 播磨灘に沈む夕日【1】 10.15. 17:30

秋の夕暮はつるべ落とし 随分ばやくなった日没。海峡は茜色に
明石海峡へ落ちる日没 2018.10.15. 高倉山で

播磨灘に沈む夕日【2】 10.15. 17:30頃

明石海峡へ落ちる日没 2018.10.15. 高倉山北斜面より

日没 播磨灘に沈む夕日【3】 10.15. 17:30

秋 日没 播磨灘男鹿島に沈む夕日 2018.10.15. 横尾道で

日没 播磨灘に沈む夕日【4】 10.15. 17:30

秋 日没 播磨灘男鹿島に沈む夕日 2018.10.15. 横尾道で

10.15.の夕暮れ 思いがけず出会えた茜色に染まる日没
もう一度しっかり眺めたくて、同じ道 西六甲の縦走路をたどり
帰りに日没に出会う目算で旗振山へ向かう

色好き始めのころの秋の風景 高倉山で 2018.10.25

色好き始めのころの秋の風景 高倉山で 2018.10.25

縦走路に出ると快晴の空 須磨浦の沖海苔養殖の筏がくっきり見える
高倉山より 2018.10.25.

秋の午後 弱くなった日差しが差し込んで色合いを深くする
高倉山から鉄拐山への縦走路で 2018.10.25.



秋の午後、弱くなった日差しが差し込んで色合いを深くする
高倉山から旗振山への縦走路で 2018. 10. 25.



夕暮れが近くなった秋の午後 旗振山山頂で【1】
明石海峡が照り輝いて夕暮れ近し
帰り道で日没が見られそうだ。 2018. 10. 25.



夕暮れが近くなった秋の午後、旗振山山頂で【2】 2018. 10. 25.



夕暮れが近くなった秋の午後 旗振山山頂で【3】 2018. 10. 25.



高倉台のバス道路まで戻ってくると西の空が染まり始めている
急いで、絶好の夕日ポイント 横尾道 野路菊の丘周辺へ戻る
2018. 10. 25.



明石海峡の西 播磨灘へ沈む夕日 横尾道より 2018. 10. 25.

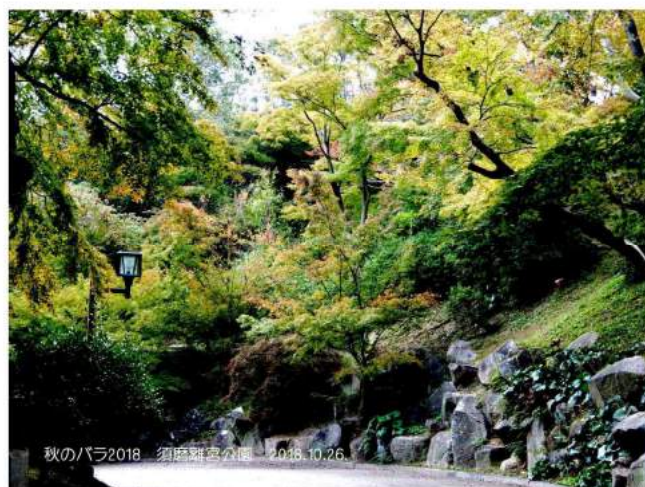


明石海峡の西 播磨灘へ沈む夕日 横尾道より 2018. 10. 25.
ズームアップすると薄っすらと播磨灘に浮かぶ男鹿が見え、男鹿島に沈むようだ



17:12 日没 播磨灘 男鹿島に沈む夕日 横尾道より
2018. 10. 25.









(左) 京都北大路橋から眺める比叡山右手山裾が八瀬 (右) 高野川が流れ下る比叡山下 八瀬
 関西にいと山や谷を鮮やかな赤に染め上げる東北の紅葉がなつかしい
 異常気象が続く中で迎えた今年の秋 最近 特に関西では真っ赤に色づく紅葉が寂しい限り。
 今年は暖かい秋 神戸では特に色づきが悪かったといひます。

墓参にでかけた京都洛北の八瀬で思いがけず、真っ赤に色づいた紅葉のトンネルに出会えたので、
 Photo Album にして 四季折々訪ねる手軽な京の田舎。比叡に登るもよし。大原や洛北散策の紹介を兼ねて
 のおすそ分け。京都の街に一番近い洛北八瀬の里 洛北の紅葉というとみんな大原まで出かけるのですが、
 高野川が流れ下る比叡山下八瀬ケーブル駅周辺は真っ赤な紅葉のトンネル。 見上げる比叡の山体も真っ赤に
 染まっている。今年一番のうれしい紅葉の景色でした。



高野川沿いを岩倉から八瀬・大原そして若狭へつなぐ国道386号線 八瀬ケーブルバス停周辺より

